

令和8年 第8回総務経済常任委員会会議録

令和8年6月4日 議員控室

○事件

(1) 八雲町デマンド型乗合タクシー導入に係る事業者打合せ音声について

○出席委員（8名）

委員長 牧 野 仁 君
宮 本 雅 晴 君
三 澤 公 雄 君
水 野 博 美 君

副委員長 安 藤 辰 行 君
横 田 喜世志 君
赤 井 睦 美 君
黒 島 竹 満 君

○出席委員外議員（5名）

議長 大久保 建 一 君
倉 地 清 子 君
小 西 雄 一 君

寺 田 広 樹 君
関 口 正 博 君

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
事務局係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（牧野 仁君） それでは、急遽ですけれども、皆さんお疲れのところ、総務経済委員会を始めたいと思います。若干僕から趣旨をお話しさせていただきます。

公正な議会運営のために今日こういう席を設けた理由は、昨日の一般会計補正予算の質疑の中で、疑義を抱くような発言も出てましたので、これを公正に見るために、直ちにその真意を調査したいと思いますので、今日は事務局の説明がありますけれども、やりとりの中で担当課と両者との録音されている記録が残っているので、それを皆さんで聞いて判断したいと思いますので、よろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） 時間は今事務局が説明がありますので、そのへんは相談したいと思います。

○議会事務局長（野口義人君） はい。会議の時間は、全体で約3時間ということになっていますので、そこは説明も入っての3時間なので、昨日の質疑の中で出た部分に焦点を絞った中でのやりとり。要は、質疑と答弁のやりとりの部分だけに絞った中で音声を聞くというかたちをとったほうがよろしいのかどうか、その辺をお諮りしていただきたいと思います。

全体で3時間ということなので、あくまでも説明員の説明から始まって、会議終了までが3時間を要したという結果でございますので。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 2日間という意味です。1日目と2日目合わせて3時間程度ありますよと認知してもらえれば。

○委員長（牧野 仁君） 急遽なんで皆さんも都合があると思いますけれども、私もちょっと6時からちょっと用事があるんですけども、その辺を加味してこの3時間という録画を聞くのか、所々1時間で短縮して聞くのか、その判断なんですけれども、これはどうしたらよろしいでしょうか。

○委員（三澤公雄君） 議長。

○委員長（牧野 仁君） 三澤さん。

○委員（三澤公雄君） 全部聞きたいのは山々なんですけど、急遽の予定なんで、例えば、5時までに銀行きたかったとか、そういった人たちの用事もありますでしょう。

ただ、横田さんが訴えた根拠に、S社からの申し入れがお手元にある会議録を見せたときに、会議の実際の進行とは、ちょっとニュアンスが違うというような言い方がされたのが、質問の根拠になっていますから、かいつまんで聞くことはあまり良くないんじゃないかなという思いも僕は感じています。

3時間というのは、ちょっとビビる数字ですけれども、全体を聞いた上でないと、そのS社さんの訴えてる。そして、質問の中でも要約の仕方が会議の終結を迎えた。要するに、2日間の会議の中で答えが出た後の答えに寄り添ったまとめ方かもしれないという指摘に対しても、やっぱり全体を聞かなきゃいけないという背景はあるんじゃないかなと僕は感じています。

○委員長（牧野 仁君）　じゃあ三澤さんに意見は全体を聞かないと背景を要約できないんじゃないか、ということです。

あと、他にご意見ございませんでしょうか。

○委員（赤井睦美君）　はい。

○委員長（牧野 仁君）　赤井さん。

○委員（赤井睦美君）　この今プリントをいただいて、2枚目の2,000×30＝6万円とか書いてる、私はその部分だけでいいのかなと。昨日の質問からいくと、1日目の会議でSさんがやるって言ってんの、なんでSさんにいかなかったんだっていう質問に対するこれだと私は思ってたんで、私自身はこの部分だけで。

○委員長（牧野 仁君）　1日目だけでいいっていうことですね。

○委員（赤井睦美君）　うん。これ1日目なのかい、よくわかんないけど。

○委員（三澤公雄君）　なるほどね。1日目の会議のこと（聞き取り不能）。

（何か言う声あり）

○議会事務局長（野口義人）　1時間10秒です。

○議長（大久保健一君）　最後のところは聞かなくていいの。

○委員（三澤公雄君）　最後の所のね、打ち合わせ終了後っていうページのまとめ方を。

○議長（大久保健一君）　そこのニュアンスが違うと言われてるのかなと思ったの。

○委員（赤井睦美君）　そこが違うの。

○委員（三澤公雄君）　S社が打ち合わせ終了後じゃないっていうような趣旨のことを横田さんは聞き取っているという。

○委員（赤井睦美君）　じゃあ、その終了のと。

○委員（三澤公雄君）　だからそういう意味でね、まだ聞いたことない音声なんでね。

○委員（赤井睦美君）　はい。わかりました。

○委員（三澤公雄君）　ただ一日目とかそういう整理の仕方で聞くっていうか。

○委員長（牧野 仁君）　ここまでは1日目で、次回の委員会で2日目聞くとか。

○委員（三澤公雄君）　まあ、そういうことも可能かもしれませんね。

○委員（安藤辰行君）　そのほうがいいんじゃないか。

○議会事務局長（野口義人）　いや、（聞き取り不能）自体は聞いてもいいですけど、ただ、定例会中にもし何かがあれば、定例会の中で行動を起こさなければ。

○委員（三澤公雄君）　そうそう、この訴えに関しては。

○議会事務局長（野口義人）　訴えに対しては。

ですから、明日までがタイムリミットなので、今日の中で一応聞き取った中で昨日のやり取りの中で、もしかしたらまずい点があったのかなということをちょっと検証していただきたいと思いますんで。

○委員長（牧野 仁君）　じゃあ、明日なんで今日中に結論出さなきゃダメなんだと。

○議会事務局長（野口義人）　そうですね。

デマンドバス全体自体の流れはまた18日に調査しますので、それはそれで補正では出んですけど、あくまでもこの会議録のやり取りの中でも、不明な点を皆さんの中で確認を取っていただいています。

○委員長（牧野 仁君） 昨日の横田さんの話だと、相手先の話とちょっと食い違う部分がある。その部分の録音を今日流すというかたちにできるんですか、事務局は。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） ちょっと待ってくださいね。特定の。

○委員長（牧野 仁君） 特定の部分だけ。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） ここに、例えば協議事項、事業者の確認とかっていう部分でいいでしょうかね。

○委員長（牧野 仁君） はい。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 黒丸とかダイヤモンドで、例えば、ここら辺を聞きたいなってご指示いただければ、その部分から流してっていうのはできます。

○委員長（牧野 仁君） 横田さんはどう思います。

○委員（横田喜世志君） やっぱり事業者との声のほうで、要はこういうことをやりたいんですよって、そういう説明はいところは、それは変わらないはずだとは思うんです。

それに対して、事業者の意向だとか、喋ってることもあると思うんだよ。やっぱりそこが切り取りした中ではさ、ちょっとニュアンスが違ふとかいうことを言われているので、そこは確認しなきゃいけない。

○委員長（牧野 仁君） 確認したいのね。そういう感じで。

○委員（三澤公雄君） まあ、自分もあれだけでも、2千円っていう提示が8万円になった経緯が分かるところがどこにあるんだろうっていう。やっぱりここはこれにも書いてないし、誰がそういう判断をしたのかもわからないしっていうところなんだよね。

だから、そこはさ、担当課がなぜそういう検討になったのかっていうところは聞かないとわからないことだから、それは、次回18日でもいいのかなと思うけど。要は、緊急に開会しなきゃならなかったことが、そういう業者がしゃべったことがちゃんと議事録に載っているのが正解かどうかっていう話だよ。

○議会事務局長（野口義人） 実際、横田議員すみません。この中でどこの部分、要は会議録1日目2日目あるんですけど。

○委員（横田喜世志君） いやいや、基本的にはさ、ここで事業者への確認っていったところは全部聞かないとならないしょ。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） じゃあまず、1ページ目のエスジーハイヤー特に意見なし。八雲ハイヤー、①急ですね、あたりをまずは流したいと思います。

○委員長（牧野 仁君） ちょっと流して。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） いいですか。

○委員（三澤公雄君） まず流して。

○委員長（牧野 仁君） ちょっと考えてたらね、戸惑ってるんだけど。

○委員（三澤公雄君） こんなやり取りがこういうまとめ方になっているのかというような理解がまずどこかでしないと。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） ちょっとごめんなさい。私が今、（聞き取り不能）始めたんで、もし音量。マイク、お手元のところにも響くようには設定してしまいますけれども、ちょっと聞きづらいとか、大きすぎるとか、近すぎるって都度お伝えください。

○委員（三澤公雄君） 聞こえないとき言ってよ。

○委員外議員（寺田広樹君） はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） じゃあ皆さん若干早いんですけど、お揃いになりましたので、これからデマンド運用に関わる打ち合わせを始めたいと思いますが、ちょっと会議に入る前に若干報告事項というか、ちょっと交通の関係でありまして、先にそちらのほうをご報告させていただきたいと思います。主幹のほうから。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） はい。改めまして、よろしくお願いします。

今スライドで、資料はすみません、配布しておりません。議会にも今週、いわゆるあさって12日には報告というかたちでさせていただこうと思うんですけど、まずは事業者さんの皆さんと運輸局さん今日いらっしゃってますので、いわゆるご報告といったところでございます。

何なのかというと、函館バス310系統というのは、函館～長万部線が8便走ってます。函館～長万部4便。長万部～函館まで4便。計8便が運行しているんですが、1月下旬に減便の事前通知があって、2月3日に正確な減便の決定通知が来ました。ただ、全部の便が減便ではなくて一部の便の減便なんですけど、ちょうど左と右であって、左の一番初めの1便。いわゆる朝一の便が減便。

それで、長万部から函館まで来る便の3便目が減便ということで、いろいろと期間が短いのか、町長踏まえて運輸局さん、あと警察、各種方面のいろいろ手続き等といろいろ調べた結果ですね。

結論としては、減便して何もしないということであれば、朝一の特に落部から八雲まで病院まで来る時間帯がなくなるとか、そういった方々の対応をしなければいけないということ踏まえて、期間限定ではございますが。

○議会事務局長（野口義人） 行政側の説明なんで、ここはちょっと飛ばしますね。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） 町でバスを出させていただいて、交通の足の確保をさせていただきたいと。

（録音データを飛ばしている音声）

○議会事務局長（野口義人） まず、南川主幹が説明した部分までは、ちょっと飛ばさせていただきますので、南川主幹が説明した後からちょっと一回流してみます。

○（音声ファイル）運輸局 運送法上の整理をするということになると、時間的なスケジュール。また、協議会でそれがいいか悪いかというところも含めて言うと、時間が厳しいので、ちょっと今回は町さんからもお話しさせていただいて、こちらのほうから町営バスでの無料運行について、ちょっとお話をさせていただいたところなので、ちょっと事業者さんにもご理解いただきたいなと思いますが。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 一応、ご報告というかたちでしたけど、事業者さんのほうで確認というか、聞きたいことなどあれば分かる範囲でお答えできればと思いますけれども、どうでしょうか。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー ずいぶん急ですね。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） 急です、はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君）　せめて半年前とかであれば、まだ別な方策だとかということも考えられるんですけど、やっぱり年末年始、さっき言っていましたけど、8人急に退職したということで、費用面というよりも回すことが非常に厳しいというのは言われていたので、近隣の町も多少の補助金とかで運行を継続できないのかっていうような、やっぱり意見を出したんですけど、お金じゃないというところで。

80便の中には、路線廃止が12路線系統ではあるみたいなので、そういった説明を受けた中では、もうどうしようもないのかなということで、町長と行ったんですけど帰ってきたということです。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　火曜日と金曜日にしたってのは、乗車人数が多いからですか。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君）　いや、乗車人数でいけば、それほどここは特別そんなに大きくは変わらないです。これ、11月の一週間なんですけど、大きくは変わらないっていうところでじゃあどこかって、毎日はこちらとやっぱりバスですとかの運転手も予定してない業務なので、毎日は無理ですと言った中で、元々10月からのデマンドタクシーの曜日を火曜日と木曜日にしたのは、平成6年度のアンケートと総合病院のアンケート結果で、通院の人数が高かったり、買い物のニーズが高かったのがその曜日でしたので、であればその曜日にしようということです。

あと、それをやることによって、このバスに何人くらい乗ってくるかというのも人数的なものが少しわかってくるかなというのは、それはもうちょっと後から考えてみますけれども。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君）　そういった火曜日、金曜日の利用者があるって、9月末で終わって、それが乗り合いタクシーの曜日とそのまま引き継ぎではないではないんですけども、そういったところで効果できればなといったところでございます。

参考までに、函館から長万部間の運行なんですけども、今現在の時点では、森や長万部は特に何も対応はしない。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君）　なかなか1便1往復走らせても補助の対象とかになるものでもないですし、かつ既存の路線バスが走っている路線なので、そこを運行するということは通常だとなかなか今回減便で研究ということで認めてもらえるかなと思ってるんですけど、通常だと民間が走ってるバス路線に他の交通モードを導入するっていうのは、やっぱり望ましくないというか利用者減少につながりますので、なかなか手も打ちづらいっていうのが実情だと思います。

まあ、火・金なので、もしかしたらハイヤーだとか、他の移動手段に移られる方もいるのかもしれないですし、ただ事業者さんいる中で、町として町のバスを走らせてやるしか期間的にも手続きは無理なので、やらせていただくというのを今ちょうどいろんな協議している最中でしたので、あらかじめ先にご報告して情報として認知していただきたいということで、今日先に報告させてもらったところです。

他、何か大丈夫ですか。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　有償運行は間に合わないの。

○（音声ファイル 話者不明瞭） まず協議会でやる・やらないだから、それで協議会で合意をする協議会をまず2月ないし3月に開きますよね。そこから申請いただければ、ギリギリ間に合うかもしれないんですけど、今度それを受けてからの警察の手続きのもと1ヶ月、2ヶ月なにがしかかるので、ちょっとスケジュール的には厳しいかなと思いますね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 町のバスで、町がやって有償というのは、一時考えたんですけど、町が運賃を取るというのは、使用料とかと同じで町民に義務を与えることになるので、条例が必要だと。

それで、半年間の緊急運行のために条例を作るのかと。それ以前に条例の案をそれまでじゃあ今作って間に合うかってもうたぶん提出期限が10日とか。

○（音声ファイル 話者不明瞭） 難しいですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） それもまあ、実際に難しいし、作る意味もない。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 上の湯線が八雲にこっちまで来るということにはできないですね。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） スクールバスの延長ということですか。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） あれが、こんじょうはあくまでも学校までっていうルールが。

（何か言う声あり）

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そうですね。通学路というか、学校に行くための運行のところからは、路線を外せないということがあると思うところですね。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） あとは、今おっしゃったように、当然スクールバスという方法も学校教育等に聞いてみたんですね。その空いてる時間だとか、延長を踏まえてできないかどうかと。結論はやっぱ難しいと、やはり代替え。何かあった時の臨時的な対応だとか、よく大会とかにも使っていらっしゃるということもあったり、そういうこともあって、スクールバスっていうのは、ちょっとそこは外させてもらいました。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） SGさんどうですか。

○（音声ファイル）SGハイヤー 大丈夫です。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 大丈夫ですか。

○（音声ファイル）SGハイヤー はい。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） これをちょっと2月12日に議会の皆さんに減便ということと、対応策というこの2つを説明させていただきたいと思います。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー あくまでも臨時対応なんで無償になってまた有償になるんで、なかなかそこは難しくなるんですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そこですね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー あくまでも臨時措置だということで。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） そうですね、臨時措置ということ。あとは、完全に10月からは今度ご自宅までの乗り合いなので、バス停じゃないよっていう。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そうですね。一回安くなってっていうのがあります。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 無償になってまたお金とんのかっていう話。そこは絶対また、とらないほうに傾いてきちゃうんで。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） はい。絶対、延長しないのかとかそういう声も絶対出てくると思うんです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 検討のスタートのときは、無償であるとは思っていたけれども、検討の中にはほとんど入れていなくて有償で考えていたんですけど、やっぱり手続き的にどうしてももう無償で町がやるしかないんだな、という機能がありましたので、やむを得ないというご理解を。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー わかりました。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） はい、すいません。

ということで、そうしましたら今日の本題のほうに入っていきたいと思います。今日レジュメ等資料を若干用意していますが、一応まずこれまでの経緯ということで。

○議会事務局長（野口義人） 協議事項の説明も飛ばしていいですか。

（「はい」という声あり）

○議会事務局長（野口義人） 要は、協議事項入って（１）で町から説明と書いてますよね。それで、資料のとおり説明したと。そこまで飛ばして、その後から。その事業者への確認の部分あたりから流します。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） よろしいですか。

（「はい」という声あり）

（録音データを飛ばしている音声）

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 運行経費等について、まあ安いとか言われるとまたあれなんですけれども、時間制にしたっていうところでは、以前、大久保さんとこからもメーターがいいんじゃないかという話もあったんですが、時間制のほうが事務の手間だとか考えても一番簡易なのかなというふうなところですが、そのへん何かご意見とがありますか。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 時間制は、出庫から帰庫までですよ。

○（音声ファイル 話者不明瞭） その考え方できますね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー そうですよ。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 今の運行してるのはそうですけれども、必ずしも出庫からでないとダメだということではないのかなと思います。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー いや、基準となるのが。料金基準となるのが、出庫から帰庫までになると思うんですよ。

だから、例えば落部からのお客さんを迎えるとなると、八雲の車庫から出発してお客さんを迎えて、それで、業務が終わって、帰庫するまでの時間帯が時間帯の運賃の基本的な考え方にはなると思うんですよ。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） だから、自分が調べた中では、その迎えに行った場所に着いた時点から、というふうに書いているなというのは思ったんですよ。時間制ってなったときにですね。ただ、それで貸し切り営業をするときのルールなんですよ。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー まあ、まあ、いいです。それで、だいたい1時間として計算してるんでしょうけども。例えば落部線で、蕨野だとか東野のほうに入ってしまったって1時間半ぐらいかかるということになると、それはプラスしていいということなんですか。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） すいません。まず、スタートが今ちょっと違ったので、あくまでもお客さんを乗せている間、着いたところから八雲までっていう料金の計算の仕方をしているというのは、1つです。

あと、もし距離が例えば、栄浜行って上の湯行って、蕨野のほう入ってしまったみたいな時には、運行方針がある中で60分以上もし運行計画がかかるといった場合、すごいそこはお客さんも大変ですよ。その時に事業者さんで車をプラス出すことができ、60分以内にできるのであれば、そういった場合の増便はOKですということで、運行方針のほうではそのようにしていました。極端にやっぱり長くなってしまう。

ただ、もう車両が出せなかったらそれしかないんですけど、もし、60分の計画が冬とか特にもし延びるかもしれないんですけど、そういった場合は、じゃあ1件だけ上の湯まで1台別に走らせて、他の人が乗ってきても、じゃあ30分、40分で収まるというような場合であれば、それは1台別に出してもいいです。増便が可能であれば、という運行方針にしましたので、1時間で収まるのであれば、町のほうから、この日だいたい時間短いけど何で2台出してるんですかっていうふうになっちゃうかもしれないですけど、運行計画として、そういうかかる場合は、そういう対応でお願いしようかなと思ってました。

○政策推進課主任（吉原匠君） 時間制に関しては、選択ができるという言い方がちょっと適当じゃないのかもしれないんですけど、今の参事がおっしゃったように、ここに来てくださいって言って乗せてから終了するまでという考え方もできるし、大久保社長もおっしゃるように、営業所を出発してから終わるまでという考え方もできるのは、あとは事業者さんがどっちに設定しているか、適用額なのか、書き方としては。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー そんなあやふやでしたっけ。

○政策推進課主任（吉原匠君） 制度が変わるときに、当分の間、営業所からのやつも設定できるよという言い方で（聞き取り不能）なんですよ。

なので、どちらかというと標準的には、指定した場所から終わりまでなんだけど、従前の考え方としても営業所から終了するまでっていうのもできるよということになっているんですよ。（聞き取り不能）

○（音声ファイル）八雲ハイヤー わかりました。あと1台あたりに乗せるお客様の人数っていうことは、どういうふうに考えれば。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 人数については、基本的には定員って考えてます。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 定員。そしたら助手席にも乗せる。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 乗せるということ。

ちょっとその辺は以前、町長とお話しして定員未満、少ない人数という話をしたんですけど、やはりそこは財政面もありますので、支出に絡む（聞き取り不能）。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー したら、8人いたら2台。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 2台ということの考え方です。まず、実証はそれで。まあ、もしかして運行していく中で、さまざまな声が寄せられたりだとか、そういった場合に、もう一回それを検討する可能性があるかどうかちょっと今は言えないんですけども、そのへんはやっぱり実証はまずこれで行くべということと言われていますので。

なので、貸し切りじゃない多人数なので、乗った人はちょっと大変かなというのは重々考えているところであります。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー あと、このオペレーター費用なんですけど、これは予約受付は毎日やってるけども、運航日は週2なんですよね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ああ、そうです、そうです。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー じゃあ、何日分をいただけるのかな。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そうですね。ちょっとそれ次のページにちらっと書いているんですけど、毎日分です、毎日分です。営業日分です。

ですので、予約制か次のページの（2）の上の予約センターについてということで行きますと、それを設置するには費用面って大事だと思うんですよ。

令和8年度でいきますと、10月から運行開始3月までということで、日数で行けば毎日会社さんが電話を受けられる体制であれば、182日あります。それに、1週間前から予約開始できるようにするということから、9月の7日間足すと189日で、1日2千円とすると、令和8年度では37万8千円、これが令和9年度以降、1年間365日であれば、2千円かけて73万円ということになりますので、1人分の人件費を賄うには全然足りない金額ではあります。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 月6万円くらいだよな。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 2千円の30日で、そうですね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 微妙なところですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） はい。

SGさんのほうは、費用面という部分では何か気になっていることはありますか。

○（音声ファイル）SGハイヤー これって日曜日も受け付けする感じなんですかね。土日。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 基本的に予約センターですけど、ハイヤーの会社がやってて受けられる状態であれば、毎日受けていただく。

○（音声ファイル）SGハイヤー わかりました、はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） っていうふうに前提で考えてるんですけど、土日は受付できないって言う、月・金にするとかってなればまあ、どうなんでしょう。ちょっと想定はしてませんでした。

タクシー事業者さんをお願いする前提で一応考えていたので、基本毎日やってるだろうなっていうところの考え、予約センター誰やるのかとか別に考えていないですけど、そしたら一旦次説明に入って、またちょっと不明なところがあれば聞きに来ていただければと思います。

○議会事務局長（野口義人君） また、説明の部分は飛ばしていいです。このあと参事から予約センターについての説明ということで（聞き取り不能）に変更したので、（聞き取り不能）。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） いいですか。よろしいですか。

○委員長（牧野 仁君） いいですよ。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） お願いします。

（録音データを飛ばしている音声）

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） あと、ないようであれば意向のほうをちょっと聞いていきたいなという部分であるんですけど、予約センター担当してもいいかどうかというところですね。どっちからいこうかな。

SGさんのほうでは、予約センターってまず。

○（音声ファイル）SGハイヤー これはどっちか1社。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 電話をまず番号1つにしないといけないから、多分一日に固まった仕事じゃなくて時間帯をバラバラにしたりとか、料金もそんなに高いわけでもないし、効率よく仕事できる内容でもないの、複数に分けるよりは、それもどっちか1社で固めたほうが業務の効率としてはいいのかなというふうに思ってるんですよ。

どうしてもやりたいとか、そういうのはありますか。

○（音声ファイル）SGハイヤー いや、うちは特に。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ないですか。

○（音声ファイル）SGハイヤー どうしてもというわけではないんですけど、はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） どっちでもいいような感じ。

○（音声ファイル）SGハイヤー そうですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） どっちでもいいのか。

○（音声ファイル）SGハイヤー そうですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） わかりました。やるならやってもいいし、みたいな。

○（音声ファイル）SGハイヤー はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 八雲ハイヤーさんどうですか。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー うちはこの土日祝日も受け付けして、一日2千円では合わないです。無理です。それなら、SGさんにやってもらったほうがいい。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 配車会社業務の片手間にはちょっと無理だと思うので、そうするとやっぱりある程度人員とかも強化していかないとかならないので、ちょっと雇用できる金額でもないし。

また、事務所も開けとくってという人員を用意してやるにしても、土日祝日は、じゃあまた交替業務を充てなきゃならないので、ちょっと無理ですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ちなみにですけど、さっきそのSGさんもそうんですけど、祝日休みの話されたんですけど、実際、予約センターを設けるとしたら、

受けて運行、土日祝日は運行計画は立てないか。まあ、月・木じゃないと立てないですけど、受ける人っていうのは、あれですかね。イメージとしては、普通にハイヤーの電話を受けている方が受けるイメージですか。それとも別な、普通の八雲ハイヤーですって出るほうじゃなく、オペレーターの人じゃなくて。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー その兼務は無理だと。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 無理です。会社の別なほうで受ける。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー そうです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） S Gさんの場合。

○（音声ファイル）S Gハイヤー 私は今ちょっと思ったのは、携帯を事務所において2階に事務員とかいるので。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） S Gハイヤーのオペレーターさんが受けるのではなくて、ということですね。

○（音声ファイル）S Gハイヤー そうですそうです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そっかそっか。

でも、今の八雲ハイヤーの社長の話を聞いて、ちょっと僕たちも盲点っていうか、ハイヤーは毎日やってるよねっていうイメージはあったので、土日もし休みなく受けれるよねっていう頭の考えていたんですけど、ハイヤーはそうだけど、予約センターを受ける職員が別の、要は星五さんとか、八雲ハイヤーだったり、2階の事務所の方が受けるとすれば、その人方は、土日祝日は毎日いるわけではないよねっていうところですね。

○（音声ファイル）S Gハイヤー はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そこ、ちょっと考え直さないといけないかもしれないね。

逆に、例えば、そしたら平日ということでは、それは可能ですか。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 平日の、例えば、何時から何時までという区切りがある中であれば、やれると思いますけど、1日2千円だったらうちは受けたくないです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 今、朝9時から4時までということでは、どうかっていうのは、今まで話してきましたから。そのへんはS Gさんは。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー それであれば、30日って受付いれてもなくなるわけですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） あ、30日じゃなくなりますね。そうですね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 単価のね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そうか、そうか。祝日全部抜けているのでっていうところですね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー そうしたら例えば月4万くらいになっちゃうもんね、20日くらいで。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） はい。そういうことですね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー オペレーター業務の平均の対応時間書いてますけど、実際の電話対応が終わった後に入力する業務だったりとか、昼間とか電話ってやっぱ集中しやすいので、1件について短いからいいというわけではないので。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そうですね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー そこで、タクシーの配車と熊石の予約とこちらの予約というのが重なってくると、オペレーターも混乱しちゃうというか、あまりにも容量オーバーというようなことになりやすいので、すいてる時間といえはすいてるかもしれないですけど、やっぱり集中するという時間帯があるので、予約が込み合ってる時間もあるので、そういうことを考えると、やっぱりオペレーターに任せるので、1日2千円というのは全然割に合わないということがあります。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 確かに、平均とは書いてますけど、実際はわかんない。多分、前の日とか急にちょっとそれなりの件数が来たりだとかというのもあるかもしれないし、SGさんのほうはどうですか。今、八雲ハイヤーさんの。

○（音声ファイル）SGハイヤー わかります、わかります。ただ、やってもいいかなと思ってます。まず動いてみてっていう気はあったので、はい。それはまたいろいろ相談しながらとは思いますが。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） はい。どっちにしても、今、土日祝日の話が出たので、さっきは土日入れてもっていう話ですか。

○（音声ファイル）SGハイヤー いや、さっきは、なので最初私がこれは土日でもですかって答えもそうなんですけど、それであれば土日のことも考えていかなきゃ、10月までまだ時間があるので、なんか違う方法、土日にはどういうふうにするかとか、なんか考えなきゃいけないなと思っていましたけど。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ちょっと条件が変わってね。条件というか、提示しているものが変わってくることになっちゃうかなと思うんで、受け方として可能。多分、要は、平日今まで勤務してない人が借りに来たとしても、土日誰かが受けるためにいたとしても、誰かいればいいのか。

最低、やっぱり受けれる人も1人じゃない、複数いないとダメかなというのは思ってるんですよ。休みだとか、要は、担当者は1人でいいんですけど、今日、担当がいらないから電話を受けられませんかっていうことにはやっぱりならないので、複数の人が予約を受けて、台帳に処理するということは、可能な状態というのは必要だと思っていますので、そのあたりは、複数というのは5人も6人もということではなくて、誰かが休んでも対応できる、そういうことができるという対策が必要かなと思ったんですよ。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 例えばですよ。平日の9時から4時までの受付時間にして、路線が3つあるので、1日3千円とかっていうふうにならないですけね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ちょっとそれは日にちのこともあわせて、そこはもう少し再度検討させてください。それで、検討するためにどういった条件というか、どういった方法だったら可能なのかなというところがちょっと検討しないといけないので、うちのほうで今日決めたいって言いながら、意外と詰めが甘かったのかなというの思ってるんですけど。値段の請け負う金額。

SGさんはさっきのすみません。曜日の話ですけど、曜日、平日ちょっとごめんなさい、戻りますけど、土日は入れないほうがいい。

○（音声ファイル）SGハイヤー できれば土日、祝日は事務所空いてるんで。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そういうことですよおね。誰かをそのために配置しないといけなくなるからっていう。

○（音声ファイル）SGハイヤー なので、携帯ですね。携帯だと、どこでも受け付けできるので。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ああ、ただ携帯だとイメージがさっきの、なんていうんでしょう。何番のお客さんですよ、とか、それはメモしておいて戻ってから。

○（音声ファイル）SGハイヤー っていうような感じに土日はなってしまうかなと思うんですけども。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そういう対応をするというところでいうことですね。

○（音声ファイル）SGハイヤー しかないかなと。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） はい。まあ、聞くこと確認。何番の人で名前が誰で、住所どこで。

○（音声ファイル）SGハイヤー そんなにいっぱい来ますか。予約そんなに来ることを予想されてますか。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） いやいや、全然わかりません。予約の想定はわからない。ただ、今日の最初に言いましたが、路線バスが1便なくなったことによって、きっとこれを始めてもバス乗る人もいるよねって思ってた人たちが乗る便がなくなったので、その分は増えるんじゃないかなとは思っています。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー そして、前日から登録だけしておくかという人も結構います。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そうですね。とりあえず、登録しないと絶対使えないので、僕たちは始まる前に登録を増やすという作業をしようかなと思ってます。

でもまあ、そういった方向で社長さんじゃあ、ずっと携帯離せないんですけど、そういう。

○（音声ファイル）SGハイヤー 最初はそれしかないかなと思ってたんですけど。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） でも、できればやっぱり休みじゃないほうがいいよと。

○（音声ファイル）SGハイヤー できれば土日祝日は受け付けられないほうがスムーズにこういうのもできるかなと。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 目の前にないからですね。

○（音声ファイル）SGハイヤー 二人は必ず事務所にいるんで。

○（音声ファイル 話者不明瞭） 乙部町は平日だけにしてますね。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） そうそう。乙部（聞き取り不能）が土日祝やってないから。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ちょっとね、僕たちも相当道内の事例を見てきたんですけど、あまりなんか予約の日を時間は分かったんですけど、土日受け付けませんというデータもあまり見たことがないと思うんですから、ちょっと正直今日言われるまで、はっと思いましたので、そこももう一回なるべく職員の時間のほうがいいですよ、っていう話から始まりますよね。平日の方ができればいいという。そのルールっていうのを。

（何か言う声あり）

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） 月曜日、祝日がどうかなというところなんです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 月曜日祝日で火曜日運行あれば、いや、そうだね。金曜日まで連絡くれれば。

○（音声ファイル 話者不明瞭） 逆に祝日だけは知って、土日はもう普段からやってませんっていうのはどう。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） まあ、そのほうが分かりいいっちゃ分かりいいんですよ。ただ、祝日に誰かが対応しないといけないということは、変わらなくなっちゃいますけど。月曜日って結構一番祝日が多い日なので。

○（音声ファイル 話者不明瞭） 土日込みでやるより日数とか少ないので、なんとかお願いできませんかっていうかたちになるかなっていう気は。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 祝日は基本休みですよ。

○（音声ファイル）SGハイヤー 休みです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） どっちもそうですよね。下だけ動いてるんですもんね。

ただ、どっちにしても、木曜日休日であって金曜日の運行となれば、運行だけであれば、誰かが4時半に行って確認して運行計画を作って、明日これで走ってくれっていう感じにはなるということです。

もし前の日が祝日であっても、次の日運行の日であれば、予約センターないほうの方は、4時半以降に会社に行って予約の状況を確認して、それで運行計画を作って、明日走ってもらう段取りをしてっていう作業をしないといけないということになりますよね。

○（音声ファイル 話者不明瞭） その場合って、運行事業者さんもスタンプを押さなきゃいけないなら、どっちみちどうしよう。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） ただ予約を受け付けるのは、もう金曜日の夜の時点で予約自体はもう受け付けなくなるので。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 土日やんないってことね。金曜日の夜で。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） 土日。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 土日祝でも。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 前日、祝日の場合はどっちみち利用しようと（聞き取り不能）。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 前日祝日はそう。前の日が祝日だったら、最終確認して計画作れないから。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 朝一発ドンではさすがに多分厳しいと思う。

- （音声ファイル）ＳＧハイヤー ネット環境さえあれば、できるんですよ。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ネット環境あれば。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） そうですね。ただ、まず入るのは、個人情報がかつり載っているデータになるので、あんまり多数の人をこのチームスの１個のチームの中に入れるというよりも、代表するパソコンを入れてもらうようなイメージであります。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 持ち歩きでなくて、という意味でね。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） やろうと思えばできるんですけど、増やすことはできます。ただ、その時にリスクが増えますっていうところで、まあどう考えるかというところですよ。
- （音声ファイル 話者不明瞭） タブレットとかも紛失した時に。
- （音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） 個人情報は、所持しているものが増えると、そのリスクが増えるよっていう。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） きっと、その時に両者の責任がリスクが増えるっていうところも考えられるなっていうので、最小限にしたいなとは思っていました、そういったところは。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 今からいくと、まず土日は予約センター開けないほうがいいなっていうのはちょっと思いましたが、問題は祝日だね。
- （何か言う声あり）
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 三連休だったら、金曜日の夜に運行計画立ててしまう。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） そうです。確定と確認して、運行計画もう動くことがないんでっていう。
- （音声ファイル 話者不明瞭） だとしたら、もう土日祝ではもう予約はできませんって。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） できるっちゃできるかなとは今一瞬ちょっと思いますけどね。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 確かにね、そのために祝日出てくるとだけに見合うだけの人件費をみているわけではないから。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） そうですね、ちょっと現実的じゃない。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） いる前提でやっていた。
- （音声ファイル）八雲ハイヤー 結構、その業務と重要性比べたら、ちょっと費用安すぎません。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ですよ。休み出てくるまでのものでもないし。
- （音声ファイル）八雲ハイヤー ちょっとその個人情報も絡むんであれば、余計１日２千円やそこらではちょっと受けれないですね。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 祝もとったら、この日の予約はいつまでについてわかるかな、町民の人に。慣れてもらうしかないか。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） そうですね。

○（音声ファイル 話者不明瞭） 金曜予約した人が翌週の火曜日の忘れるというのはありません。そうですね。それは、住民の方のあれなのではないですけど。

○（音声ファイル） 公共交通参事（戸田 淳君） それは、7日前までの予約とそれは一緒だから。

○（音声ファイル 話者不明瞭） まあ、覚えてる、覚えてないは、わからない。慣れてもらうしかないっちゃうことだね。

○（音声ファイル 話者不明瞭） 土日祝の案は、確かに検討してもいいかもしれませんね。

○（音声ファイル） 公共交通参事（戸田 淳君） わかりました。ちょっとすみません。今日で予約センター決めようと思ったんですけど、今どっちにも意見聞いて、やっぱり土日祝日はないほうがいいというところ。

実際に費用としても、その分元々事務所に誰がいる前提で費用を出してますから、休みの日に、まあ社長言ったように、外でも見れるねっていうのはあるかもしれないんですけど、パソコンを持っている人しかきつとあれだし、あとはリスクの話とかもあるので、なるべくだったら事務所に普段人が何人かいるようなときに受け入れる体制のほうが間違いないのかなというの、確かにうちもそうだなって思いましたので、ちょっとその日にちの関係一旦持ち帰らせてもらうのと。

あと、費用面もちょっと人件費っていうふうには絶対ならないんですけど、そこもちょっと合わせて日数は減りますので、ちょっともう一回ここは検討させてください。ちょっと今日決めるって意気がったんですけど、申し訳ないです。残念ながら、持ち越しで。あんまり遅くならないうちに、こういうかたちでなくても支局さんもそんなしょっちゅう来れないもんですから、またちょっと意向を聞いたりだとかということで、もしできたらというように思います。あと、何か予約センターのことで確認しといたほうがいいこと。

○（音声ファイル） 政策推進課主任（吉原匠君） 事業者が決まってから。

○（音声ファイル） 公共交通参事（戸田 淳君） そうだね、はい。わかりました。じゃあ、ちょっと今日の目玉が（聞き取り不能）のは残念ですけど。

はい、じゃあ次に行きます。運行区間のパターンということで。

○議会事務局局長（野口義人君） （3）の運行パターンどうします。決定したというただ流れだけで、あと車両の確認だけなんで、1日目というのかな。17日の会議のデータとしては今の内容でということで、把握していただきたいと思います。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議会事務局議事係長（千代貴大君） いいですね。そしたら、（聞き取り不能）は以降は再生しません。チャイムが流れてるので消えるまでお待ちください。

○議長（大久保健一君） 委員長、できれば、今までで1日目で内容が違ったところあるか確認してください。

○委員長（牧野 仁君） はい。わかりました。

それでは、今聞いた中で1日目の皆さんの話を聞きたいんですけど、すみません。何かこれに違いがあればお聞きしたいです。疑問点あれば。

○委員（三澤公雄君） まとめたページを読んだときはイメージは違わないね。

だけど、今会議をほぼ全部を聞いた中でわかったのは、要するに土日を外すっていうことになったんで、当初1日2千円で30日の予算で考えた。

つまり、1日2千円かける30日で6万円で考えたのが日数が減りましたので、っていうことは、土日を外すということになれば、20日間だから3千円の可能性も膨らんできたな。総額の予算が変わらないから。ちょっとそういうニュアンスでまとめたんだと思います。総額の予算を変える気はなくて、単価は変わるけどっていうようなイメージで僕は取りましたので、そういう内容だったかなと。

○委員長（牧野 仁君） あと他にございませんか。

○委員（赤井睦美君） 全く疑問ありません。

○委員長（牧野 仁君） じゃあ、三澤さんの意見をちょっと土日が話を聞いてなかったものですから、その部分が日数が減るということは事実を確認できましたので。

じゃあ、これでよろしいですか。1日目は。

（「はい」という声あり）

○委員（三澤公雄君） 要は。いや、だからこの流れでいったら、SGさんがやる気を示したっていうところ。でも、やらないとは言っていない。

○議長（大久保健一君） 議事録と録音が違うって点はないですね。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） ないない。今三澤さんが言った新たに出てきたのが土日の件。

○委員（三澤公雄君） 新たについていうか、解釈としてそういうことが全体の流れの中でわかった。

○議長（大久保健一君） いや、私の解釈ではあれだよ。2千円という単価は変わってないから、土日ねくなれば4万円という話だよ。

○委員（三澤公雄君） いや。うん。だけど、解釈としてね、管理費用についてだから、町の提示した2千円かける30日、6万円という当時一番最初のその部分は、総額は変える気はないんだなというふうにイメージとったけど、総額も減らす考えなの、この段階で。

○議長（大久保健一君） この時はね。

（「どうぞ」という声あり）

○議会事務局議事係長（千代貴大君） じゃあ、2日目になります。資料のほうも一緒に進んでもらったほうがいいと思います。3月30日のほうを。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） そうしましたら、10時前ですけど、皆さんお揃いになりましたので、これから打ち合わせのほうを進めていきたいと思います。今日は本当に年度末のお忙しいところで、皆さんお集まりいただきまして、ありがとうございます。

このデマンド型のタクシー、10月からの実施に向けて、今準備を進めてきていますが、ある程度今日も決めれることを決めていきたいなというところと、あとちょっと、今回先週、資料を送らせていただいて、道路運送法の手続きの関係、あ、急になんかどうなったんだろうということだと思うんですが、その辺も、函館運輸支局さんで今日も出席いただけて説明をしてくださるということもありましたので、あわせてお願いしたいなと思います。という

ことで、早速ですけれども、資料に沿ってまず進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず一番で、前回もう1ヶ月以上前になるんですけれども、前回の協議結果ということで、確認になります。まず、運行経費の部分で、30分単位の時間制運賃にしますよというところと、最初の乗車地から予約者の下から、最後の降車地までで時間を見ますというところが1点。

それから、1台あたりの乗車人数について、乗車自体が5人の車両と6人の車両がありましたけれども、こちらのデマンド型乗合タクシーで運行するときには、乗客、お客さんの定員は4人にしようということで、確認をしたところです。

また、運行区間、交代制のパターンということでは、2ヶ月ごとに運行区域を交代することと、運行開始時は。

○議会事務局長（野口義人君） 委員長、ごめんなさい。また今、前回のおさらいで、その後協議事項に入るんですよね。今日事項に入るんで。

○議長（大久保建一君） もう、（2）の予約センターについてからでいいんでない。

○議会事務局長（野口義人君） はい、そこからで。

○委員（三澤公雄君） 今しゃべりかけたところ、運行2か月ごとの交代でっていうような提案がされてたってこと。今しゃべったの。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） もう一回ちょっと流します。

○議長（大久保建一君） 運行は2か月ごと交代だよ。

○委員（三澤公雄君） ああ、ごめんごめん。今俺記憶がごっちゃした。そうだね、はいはい。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 大丈夫ですか。では。

○議長（大久保建一君） 別紙2って。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） のところまで飛ばしてよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議会事務局長（野口義人君） ちょっと町の説明の部分も聞きたいということなんで、そこも。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） はい。お待ちください。

（録音データを飛ばしている音声）

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） それでは、（2）の予約センターについての別紙2のほうで、またご説明させていただきたいと思います。

予約センターにつきまして、先ほどご説明しましたが、毎日受付するという町のほうの想定だったんですけれども、休日のみの受付ということで、ちょっと庁内でも協議しまして費用等についても再度、再検討案ということで示させていただきました。

それで、まず管理経費につきまして、オペレーター費用ということで、前回案では、予約センター1日2千円とするということで、休日も含めるということでしたが、今回、再検討案ということで、月額1ヶ月あたりということで、8万円以内ということでさせていただきました。

それで、当初2千円で30日計算すれば、大体6万円ぐらいということだったんですけれども、前回の会議の中でも、いろいろ個人情報の取り扱いだとか、あと、うちのほうでも予約を受ける以外にもさまざまな調整だとかということもあるでしょうし、あとは予約自体もまとまってくるのであればいいんですけれども、やっぱり1日の中でばらついて、結構それなりに件数くれば、受けるほうもなかなか負担もあるだろうなというところですね、内部でもその辺を協議させていただいて、若干ではありますけれども、費用のほうをちょっと増やさせていただいて8万以内というふうにしています。

それで、ちょっと以内というところが、まず実証運行については、本格運行になったら、これは補助金ということで予算を組みたいと思うんですが、実証運行については、補助の対象にするので、補助金ということだと補助の対象にならないものですから、委託料ということで予算を組みますけれども、消費税を含むといったところで、今8万円以内。それから、選定にあたり、後ほど後ろのほうに出てきますけれども、どちらか一方で決まればいいんですけれども、どちらもやりますということであれば、ちょっと見積もり合わせということで、最終的に考えていますので、そうなった場合には、若干金額が下がるかもしれないということでの8万円以内ということであります。

まあ、平均的な1日当たりの金額でいけば、だいたい3,900円ぐらいということで、前回の2千円よりはちょっと増やすことができたかなと思いますけれども、一応そういった金額で考えております。単純に計算した額について年間の見込みということでは、その下に記載をしているところです。

○委員（三澤公雄君） 疑問が出たところでちょっと止めてもらいたいんだけど、前回の会議でね、八雲ハイヤーさんから予約センターをやりたいという意向は聞いてないんだけど、ここの町からの説明で今しゃべったように、両事業者が予約センターを請け負う意向であるためっていう解釈が出てきてるんだけど、どこを取ったら八雲ハイヤーさんが予約センターをやってもいいというふうに解釈できるの。僕が聞き逃したのか。

○議長（大久保建一君） いい。しゃべっていいかな。

○委員（三澤公雄君） もちろん。

○議長（大久保建一君） 俺はあの金額では合わないという話はしたけれども、予約センターはやってもいいとは言ってた。ただ、あの金額では、うちは受け入れません。それであれば、SGハイヤーさんにやっていただきたいという発言はしてます。

○委員（三澤公雄君） そうだね。そういう意見は僕らは読み込んでるけど。

○議長（大久保建一君） 予約センターをやりたいくないっていうことは伝えてません。

○委員（三澤公雄君） 言っていないっていうか、まあ、そういう書き方はしてないから。じゃあ、前回からの引き継ぎの中では、予約センターを両者が請け負う意向であるためっていうのは、会議の流れとしては、そういう理解でこれから聞いてけばいいんだね。

（「はい」という声あり）

○委員（三澤公雄君） わかりました。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 続けます。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 続いて、予約件数の対応時間の例ということで、これもちょっと実際には始まっている何件予約があるかというのが想定はすごく難

しいのですから、1便が平均で2件の予約だとか、4件、6件、8件、10件予約あると、週で大体どれくらいの予約になるので、平日5日間だと平均してこのくらい1日で予約があります。また、祝日が入ってきたりすると、予約が平日に固まるのでこういった予約になりますというようなことで記載をしています。まあ、あくまで実際どうなるかというのは分からないんですけども、仮に1日平均4件、1便平均4件ですね。

そうすると、1日に4便あれば、4便とも4件の予約があるとすると、1週間で64件の予約になります。それが平日5日で単純に割れば、1日12.8件ですけども、祝日が入てくると、1日16件だとか、連休になったりすると1日32件だとか、平均で増えるというイメージになります。

あとで、予約受付のほかに変更やキャンセル、それから予約センターを担当しない運行事業者との連絡調整とかっていうのも出てくるのかなと。そのほかに問い合わせや苦情なんかの対応というの、このほかに出てくるのかなと思っています。

祝日の前後は、平均予約件数の増加が見込まれるというところですね。わざわざ説明しなくてもいいかなと思いつつ。あと、確認しておきたいところで、年末年始の予約の受付というのが、予約受付日を平日のみとした場合に年によっては、1月2日、3日というのは祝日じゃないので、予約可能日になってしまうということから、事業をスタートする住民に支出する段階で、予約の受付日は平日のみとして、年末年始の〇月〇日から〇月2日を除くといったことにしていけないといけないなと思っています。

ちなみになんですけども、こうした場合に、例えば年末年始の休業って、八雲ハイヤーさんとSGさんそれぞれいつからいつまでが決まっておりますか。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　うち、事務所は正月三が日。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　31まではやっている。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　やっています。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　じゃあ、1月1日から3日まで。

SGさんのほうはどういう感じですか。

○（音声ファイル）SGハイヤー　毎年バラバラなんですけど、1週間くらいは事務所を休めます。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　1週間。

○（音声ファイル）SGハイヤー　はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　7日間ぐらいということですか。

○（音声ファイル）SGハイヤー　そうですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　結構休みがある。

ある程度合わせればと思いましたが。そうか、仮になんですけども、1週間になると、多分予約受付のほうで1週間前からということになるものですから、そうですね。運行1週間続くと予約ができなくなるので、そうすると、運行日自体も運行できなくなるという可能性もあるので、この辺ですね、今のところ運行日については平日のみとして、1月1日から3日を除くということにして整理しています。

それで、6日までの休みだと1日でも受付ができるんですけども、その辺というのは予約受けられるかどうかというところで、今後なると思うんですけど、会社のほうで検討ということって可能ですかね。予約受付の。

○（音声ファイル）SGハイヤー いつからですか。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） その年末年始の部分ですね。もし1週間休みになると、1月の運行日がおそらく4日以降運行する予定になっているんですけど、その辺っていうのがちょっと運行便が少なくなってしまうということが出てくるなというところがありますので、もし仮に、そしたら、だいぶ年末年始の休みの形態が2社で相当違うので、予約センターが実施事業者がちょっと決まった段階で、そのへん話を詰めていったほうがいいのかというところかなと思いますので。ちょっと、じゃあここは実施事業者決まってから。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー デマンドの運行自体は年末年始、どんな感じになるんだしたっけ。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 運行は、1月1日から3日を除くということでは今は整備されてます。

なので、31日まで運行して次ここからなんですけど、土日が入ると休みです。あ、土日はないんだ。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 熊石のほうとかかわらず。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ということで今整理してきてたんですけども。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 1日2日3日まで。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 休みっていうところですね。ただ、その仮に予約センターがもし、SGさんでやりますってなって1週間休みになると、1週間前の予約を受け付けられなくなると、運行日にも影響が出てくるので、そこはちょっと予約センター。もし仮に八雲ハイヤーさんだと予約を受け入れるので、運行には支障出てこない。なんでこれ、ちょっと予約センターどうするか決まった後にまた相談したいなと思います。

それで、裏面行く前にさっきの予約のイメージ、だいたいちょっと予約何件入るかそもそもわからないところなので、裏面に行きたいと思います。

画面のほうで、専用の番号を設置してくださいというのは、前回と変わらない。まあ、設置通話の費用はこれの中で事業者で負担をお願いしますというところになってます。電話番号は基本的に変更しないというところを考えております、それで、あと、受付業務の確認事項ですけども、基本的には事業者間で、これでいいよねという整えばその内容でいいかなとは思ってますけれども、一応、予約受付入力、まあ、当日の受付当日4時半までには処理を終えてくださいというところを、前回と同じふうにしています。

あと、前日確定処理ということで、運行日の前日、月曜日、木曜日は6時半までに入力をした後に、前回吉原に説明させてもらったんですけど、確定ですよ、ということが分かるような処理をするというエクセル上で分かるように処理をするということにしておりました。

付け足したのが、運行日の前日が休日の場合は、休日の前の平日に確定処理をします、というようなことを付け加えています。あと、次の丸ポチをちょっとつけ足したんですけど

も、乗客定員超過時等の運行事業者への確認というところになります。予約が最低運行台数2台。まあ、4人乗りで行けば、同じエリアで8人に達したとか、そういったときは、あらかじめ運行事業者に運行車両の追加が可能かどうかというのを確認する必要があるのかなというふうに考えています。仮にもし、2台しか出せないからということで最初から決まっていれば、その確認も必要ないかなと思うんですけども。

○議会事務局長（野口義人君）　とりあえずまた説明の部分なんで、事業者の確認まで飛ばしていいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○議会事務局議事係長（千代貴大君）　よろしいですかね。

（「はい」という声あり）

○議会事務局議事係長（千代貴大君）　いきます。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君）　2台しか今週出せないわとか、ちょっとそういうことであれば、もうそこで断るしかないのかなと思うんですけど、車両の配置を決めるのがちょっとどの何日前くらいに調整しているのかというのが、ちょっと分からなかったんですが、例えば、これ、前日まで予約受けれるとしたときに、八雲ハイヤーさんだと車両とか人手のやりくりだとか調整の可能性があるのって何日前くらいとか、前の日も予約入ったら行けるよという感じなのか、どんなもんなんですかね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　うちは前の日もいいです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君）　前の日も調整して増えたら、ちょっといけるのは対応できるかたちですか。

SGさんとかは、その辺の人の調整、車両の調整というのが、例えば、予約入りましたよ、2台じゃあ乗りきれないなってなったときの調整というのは、どんな感じなんですか。

○（音声ファイル）SGハイヤー　前の日に増やすのは無理なときがあるかもわかんないです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君）　それが、あらかじめ無理だっていうのが、例えばその日っていうかその週だとか何日か前までに分かれば、確認しなくても断れる。もしかして増やせるとかっていうことがあれば、例えば1日前までだったら今無理だけど、2日前までだったら調整効くよっていうことであれば、2日前だったら明日増やせるかいかっていうことがあるかもしれない。

まあ、何日前なのか分かんないですけど、3日前なのかね。その辺のやり取りは予約センター受けた事業者さんと運行事業者さんの間で調整が必要になってくるということがあるなと思いますので、その辺も予約センターの業務になってくるのかな、というのは考えられますというところですね。イメージしてもらふのにといいところだったんですけども。その辺どうなんですかね。今でなくても決まった後にやりとりしてもらって、ルールを決めてもらえばいいかなと思うんですけど、ルール決まれば、町のほうもそれを共有しておいたほうが後々いいのかなというふうには考えているところです。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　例えば、SGさんが2台しか出せないといった場合に、黒岩と山間部に1台1台出しているとしますよね。それで、もう1台出せるよっていう時に、SGさん3台目必要なときに八雲ハイヤーが走りに戻るということは可能なんですか。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 町としては、町民のニーズがあれば対応できたほうがいいって考えてるので、そういうことが調整の中でできるのであれば、そういう方法を検討したほうがいいかな、進めたいなという思いはあるんですけど、多分、一番スタートの頃、具体化の話をする前に、その２者で交代制だとかって進めた時にその辺の何ていうんだろう。台数足りなかったときにやりくりできるっていうような話を一番最初のほうに話をちょっとしたんですけど、それが最初の時には、あんまりそういうのはちょっとっていうようなご意見も事業者さんのほうからあったものですから、あまりそこは触れないようにしてきたんですけども、まあやっていく中でとかでもいいかなと。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー 多分コールセンターが困ると思うんですよね。出れなくなるとか。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 受けれなくなると、苦情につながるかもしれないし、可能であれば、町民のニーズが合うのであれば、そこは２社の中でお互いに、八雲ハイヤーさんのほういっぱいだなって、例えば、車両も出し尽くしたんだけど、その上でまだＳＧさんのほうでいけるかいっていったときに、うちも１台出せるよってなったときに、できれば本当はいいのかなという思いは持っています。

○委員（三澤公雄君） ちょっと一回止めて。ここのちょっと前なんだけど、手元の資料のさ、今、八雲ハイヤーさんが例えばって言って話し始めたところが今のところなんだけど、このひとつ前の行の、今後、そういった部分のルールを町も共有していきたいといただきたいと思っているっていうこの音声はさ、大久保さんの声ではないけれど、町も共有していただきたいという内容だから、これ、息子さん。

○議長（大久保健一君） コンサルじゃない。コンサルだと思うよ。

町側のほうに、このデマンドとかを多く手掛けてるコンサルも入ってるのさ。

○委員（三澤公雄君） コンサルの声、了解。はい。

いや、町の括りでしゃべってる言葉で町も共有して。

○議長（大久保健一君） 出席者が町の担当とコンサルと運輸局。

○委員（三澤公雄君） うん、わかってるわかってる。町ではないんだね。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 続けます。

（「はい」という声あり）

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） なので、それは可能であれば、今後そういったところの検討していければいいのかな、というのがありますがけれども、まずやってみてやりながら検討していくというのもありかなと思いますけれども。どのくらい予約が入るのかわからないの、最初は多くなくてだんだん増えるのかなってイメージはあるんですけど。

とりあえず、ちょっと今わかる範囲でこんなイメージなのかなっていうところなんですけれども、予約センターのことで、あと他事業者さんのほうで確認したいとか、例えば、こんな時どうするみたいなのもあれば、出していただければなと、思います。

○（音声ファイル）ＳＧハイヤー 共有システムでしたっけ。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 共有システム、エクセルですか。

○（音声ファイル）ＳＧハイヤー はいはい。

- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） さっきの予約。
- （音声ファイル）SGハイヤー はい。これって予約入って登録しますよね。その時点でもう満タンですと、もうこれ以上出せないですとかってというのは、追加することできないんでしょうか。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ちょっと待ってください。
- （音声ファイル）SGハイヤー 伝わりました。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） なんとなくイメージは。
- （音声ファイル）SGハイヤー なんかそういう。前聞いた時、そういうのあったような気がしたんですけど。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 今おっしゃってたのはあれですよ。先ほどの話で、例えば、ここが8人で1人4人でここで5人だから、4のところでもう1人予約が入ったときに、ここ3台運行できるかできないかっていうのを事業者で見える化できたほうが良いというところですよ。
- （音声ファイル）SGハイヤー 前それができてたような気がしたんですけど。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） あれはですね。ここのチェックつけたら出る、出ないって、これですよ。
- （音声ファイル）SGハイヤー これは確認したというチェックなんですよ。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） そうです。はい。
- （音声ファイル）SGハイヤー ここにはじゃあ、出ないんですか。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） ここには予約をまず。
- （音声ファイル）SGハイヤー さっきのところとかで、もうこれ以上受けられませんよ。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 受けれないよとかって話ですよ。
- （音声ファイル）SGハイヤー はい。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 今の議論を聞いている中で、ここに新たに欄作って。なので、この中でも例えば、SGさんの欄と八雲ハイヤーさんの欄とかがあって、この日に関してはもうSGさん車出せないよとかっていうのが見える化できればいいかなとは思ったんですけど、ただ、それを今ちょっとできるかなっていうのを頭の中でちょっと考えてはいたんですけど。
- まあ、ただそれやるにしても、事業者さんのほうで何かを。マルなのかバツなのかっていう、何かを判断するタイミングが出てきたりだとか、それを操作するっていうのは、まず絶対発生するかなというふうに思うんですけども。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 電話で確認しないけど、これで。
- （音声ファイル）SGハイヤー 4人とか登録するんで、そのときに、あ、これ以上出せないなと思ったときに、なんかどっかチェック。パチッと入れれてたら、もうその時点では受けれないなっていうのが判断できるのかなって、どうせ共有するのであれば。
- （音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ああ。
- （音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） ちょっとこの欄で見えたら一番わかりはいいかなとは思うんですけど。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ここでだいたい何台出すかってなるからね。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 今これ見ると、今この日に何便で何人予約があるのかっていうのがまずわかるので、その段階で事業者さんとしても、いや、もうこの日もう1台出すっていうのは、もう難しいわっていう判断ができるかなと思うんですけども。

それをちょっと連動して、これの日付がすべて日が、今日の日付に対して、どんどん日が近づいてくる仕組みになっているので、この数字もそれに準じてこの日に伴って動くようになっているんで。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ずれていくからね。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） そうなんです。なんで、その動作したやつも、うまくちゃんと移動するようにするにはどうしたらいいかなっていうのを考えてたんですけど。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） 別枠でここに何月何日で。

○（音声ファイル）SGハイヤー いや、どうしても作ってくれって言ってるわけでは。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） いやいや。

○（音声ファイル）SGハイヤー これで確認できるのかなと思って聞いただけです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） はい。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 私もちっと今の議論の中でできるようにできるかなっていうのを自分自身でちょっと考えてたんですけども。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） あったら、まあ効率はいいよねっていう。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） この日もういっぱいだなあっていうのがわかればっていうところですよ。

○（音声ファイル 話者不明瞭） であれば、あれじゃない。タクシーの上限、この日は2台まで、この日は3台というですという、それを。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 前提条件みたいな。

○（音声ファイル 話者不明瞭） そう、それを先に入れちゃったほうが試しやすいかなと。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） たしかにそうですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） ただ、しやすいんだけど、前の日でも増えたらいけるよっていったときに、あ、増えた時の上限を先に入れておくと。

○（音声ファイル 話者不明瞭） それだったら、配車もこの日3台いけるから、まだ受け入れるっていう。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 迷わないで済むっていう。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） それで進めるんだったら、それで。あと、プラスアルファの余地があるかないかというところだね。いっぱいになったら聞いてとかっていうのか、そこを任すかというところですね。

入れといて、マックス2台です。でも埋まってきたな。あ、調整つくからもう1台増やすかっつって、マックス3に変えるということもできるかな。

○（音声ファイル 話者不明瞭） 事業者のほうで月のシフトとかで、この日は2台、この日は3台というのを先に決めちゃって、配車がそれに従う。多分、配車のほうでもいけるかなって判断するよりは、事業者のほうで先に決めちゃって、のほうが配車もしやすい。

○（音声ファイル）政策推進課主幹（南川隆雄君） そしたら、ここに定数台数出るもんね。
（何か言う声あり）

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） 前提条件だけ明確にできていれば、予約を受ける人は予約を受けるだけの業務に専念できるかなと思うんですよね。いいってことです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） スタートするほうがいいかな。なんか追加で来て、もし対応できるんだったら増やせないかなとかずっと考えていたんですけど、まずやってみないと予約どのくらい来るか分からないし、スタートしてみて、いや思ったように、例えば、こっちの地区だけすごい来るだとか、台数を超えるようなことがあるようであれば、その対応で、やっぱりここで電話しないと無理だねとか考えればいから。

ただ最初は、シフトで定数の台数、まあ人数なり。あとはあれですよ。大きい車両を使える日とかってなれば、またそこはちょっと見方が変わってくるのかもしれないですけど、そのほうがでも、会社のほうとしても、あらかじめ予定しやすくもいいかもしれないですよ。

じゃあ、ちょっと吉原さん、いけそうかい。

○（音声ファイル）政策推進課主任（吉原匠君） はい。ちょっと時間をいただければ。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田 淳君） じゃあ、そこは台数の確認のところは、あらかじめ会社のほうでシフトでまず見えるようにして、進める方向でいきましょうというところで、そこを整理したいと思います。

じゃあ、あと最後のところですね。予約センターの実施事業者というところで、前回お話し以降確認させていただいたときに、SGさんのほうやりますよって話で、八雲ハイヤーさんはちょっと平日だけだったらなというところだったんですけども、一応サイドというか、おそらく今回費用も変えた中で可能であれば、どちらも実施意向がある場合、事業者間でお話ししてもらえないかなというのはあるんですけど、それもどっちもやるってことであれば、令和8年度の補正予算案、6月に一応議会のほうに上程する予定していますので、それで、予算取った後に見積合わせというふうにするしかないかなとは、今のところ思っています。

正直、8万円に増えたとはいっても、人を1人雇うに値するような金額ではないので、実際に事務所にいる職員の方、費用としてはお支払いできるんですけど、事務所にいる方が業務が負担になるっていうのは明らかかなというふうに思ってますし、特に休みに入る時だとか、恐らくこれも分からないんですけど、前の日に急に混むだとか何十件とかって書いてますけど、1日に数十件とか電話くれば、結構ほかの業務に影響出てくるかなというのは、ちょっと想定されるんですけども、とはいえ、丸一日の業務というわけではないので、そこはやむを得ないかなと考えています。

はい。前回八雲ハイヤーさん、月4万円じゃできねえなっていう話をされたんですけど、一応金額を増やした中で、もし意向確認というところでいけば、やっていただけるっていう話は。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　まあ、これぐらいの金額であればやる意志はあります。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　SGさん、前の段階でもやりますよって言うってたんで。

○（音声ファイル）SGハイヤー　いや、うちはどっちでもいいんで。はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　どっちでもいいっていうのは。

○（音声ファイル）SGハイヤー　やんなくてもいいです。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　どっちでもいいんですか。

○（音声ファイル）SGハイヤー　はい。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　一応、どうでしょうかね。

あとでまたもう一回確認。どっちにしても、うちのほうもどっちもやるって言ったときに、予算可決後でないと見積もり合わせとかも出来ないんで、あとでもいいかなと思うんで、それまで少し考えていただいて、その段階で、もし、機会あってお話違う場面とか、この後どこかで話ししてもらったりでもいいんですけども、その辺によってちょっとどうしようかなと思いますけども。どうしようかな。

改めて、6月にお話ししたいと思いますので、それまでお考えしていただければな、というふうに思います。一応、今日は内容として提案として、これに変わりましたというところを共有させていただきましたので、よろしくお願いします。それで、議会の予算通りでしたら、改めてちょっと進めていきたいと思います。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　その辺、配車センターで1万円というのは単価としてはわかるんですけども、回線も増やすってことですね。電話。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　電話ですね。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　そちらのほうの費用っていうのは、これに込みってことなんですね。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　この中でやってください、というところですよ。

○（音声ファイル）八雲ハイヤー　わかりました。

○（音声ファイル）公共交通参事（戸田　淳君）　あとはよろしいですか。もし、あればまた最後にでも聞いていただければと思います。

じゃあ、本日（3）のほうに移りたいと思います。

○議会事務局長（野口義人君）　じゃあ、（3）飛ばしますよ。

（「はい」という声あり）

○議会事務局議事係長（千代貴大君）　いいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（大久保建一君）　打ち合わせ終了後まで。

○議会事務局長（野口義人君）　はい。

○議会事務局議事係長（千代貴大君）　用意できました。よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○(音声ファイル) 公共交通参事(戸田 淳君) それでは、今日の打ち合わせ、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○(音声ファイル) 八雲ハイヤー SGさん、受付センターはどちらでもいいっていうか、やってもいいっていうことなの。

○(音声ファイル) SGハイヤー 今のところはそう思ってます。八雲ハイヤーさん。

○(音声ファイル) 八雲ハイヤー できれば、うち熊石のほうもう受付すでにしているの。

○(音声ファイル) SGハイヤー じゃあ八雲ハイヤーさんでやってもらったほうが。

○(音声ファイル) 八雲ハイヤー うちのほうでやらせていただければ、できれば今後1箇所にしていきたいなと思うんですよ。

○(音声ファイル) SGハイヤー はいはい、全然。

○(音声ファイル) 八雲ハイヤー いいですか。

○(音声ファイル) SGハイヤー たぶん、はい。そのほうがいいと思うんですけど私も。

前回、どっちがどっちがっていう話だったんで、まあ、うちもどっちでもいいんで、とは思ってたんですよね。とにかく話を進めていかなきゃいけないなと。

もう八雲ハイヤーさんやってくれるのであれば、全然、私は八雲ハイヤーさんにお任せしたほうがいいかなとは思ってます。

○(音声ファイル) 公共交通参事(戸田 淳君) もし、会議終わりましたけど、どちらもそれでいいよ、ということであれば、今後、予約センターの打ち合わせとか。

○(音声ファイル) SGハイヤー もうそっちで進めていただいても。

○(音声ファイル) 公共交通参事(戸田 淳君) よろしいですか。

○(音声ファイル) SGハイヤー はい。

○(音声ファイル) 公共交通参事(戸田 淳君) あ、分かりました。じゃあそのようにして。

○(音声ファイル) SGハイヤー はい。

○(音声ファイル) 八雲ハイヤー すみません。お願いします。

○(音声ファイル) SGハイヤー いやいや、お願いします。

○(音声ファイル) 公共交通参事(戸田 淳君) わかりました。

引き続き、また連絡取り合いながら進めたいと思いますので、ありがとうございます。

○委員(赤井睦美君) これで、終了ですね。

○議会事務局議事係長(千代貴大君) あと残ってるのは、最後のページ。

○議会事務局長(野口義人君) 最後のページ。

○議会事務局議事係長(千代貴大君) 打ち合わせ終了後。

○議長(大久保健一君) これは、うちとただの打ち合わせだよな。

○議会事務局議事係長(千代貴大君) よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○議会事務局議事係長(千代貴大君) 録音の内容は以上です。

○委員(赤井睦美君) ありがとうございました。何も。

○議長(大久保健一君) 委員長、内容が違うかどうか諮ってください。

○委員長（牧野 仁君） はい。今聞いた中で前半は内容はそんなに変わらないと。まあ、土日というのがちょっと検討させてもらいました。まあ、2日目は、両者納得の上で前進んでたんじゃないかなと私は見ているんですけど、皆さんからなにか疑問点あれば。

○委員（赤井睦美君） 疑問はありません。

疑問はありませんけど、昨日の発言の中で、政策推進室長が八雲ハイヤーに寄り添った配慮をしてるんじゃないかということはあったのでね、やっぱりそれは違ってたから、常に利用者の立場を考えながら発言しているなと思ったので、そこはちゃんと削除して訂正したほうがいいと思いました。

○委員長（牧野 仁君） 今、赤井さんのご意見があったとおり、昨日のやり取りの中で、参事と寄り添ってるって話もちょうと。

○委員（三澤公雄君） いやだから、この資料は、僕は音声聞いて、違和感はないよ。まとめてるって言っても、要約をまとめているし。

ただ、今回聞いたことによって流れがわからなかったことが分かったから。だけど、これに基づいて質問してることだから、だって、当初予算で大久保さんから月4万円ベースだって考えてるはずだよっていうことを先ほど質問でわかったけど、1日目の終了時点では、要するに土日が出なくなったから、20日間で計算して、会議の中で3千円という提案もあったから、3000円で計算しても当初の6万円の予算なんかになったから6万円っていう考え方かなと思ったら、いや、4万円なんだよといったね。

でも、原案がさ、6万円の原案で作ってんだ。30日とか、20日とか、日数は変わるかもしれない。だけど、この資料を読み取って、今も音声聞いても、8万円に上げた根拠が今、具体的にはなったよ、あの質疑でも含めて。いろんな個人情報の保護だとか、難しい仕事だなということがわかったわけです。それは、音声聞いて改めてわかったんだけど。

資料から聞いた限り、不透明な部分があるから、ああいう質問をすることが何が悪いんだろうって、僕は思うんだけど。

○委員（赤井睦美君） 悪いんじゃないくて、本来ね、何の資料。本来これって議案じゃないじゃないですか。議案は補正予算の数字だけでしょう。だから、これをもとにおかしいんじゃないってというのは、私はやっぱり筋違いじゃないかなって思います。

だから、もともと土日もないから、結局、事務の方に負担もかかるし、人件費は到底届かないということも説明してるしね。金額そのものは、ああ、そういうふうになったのかって、分かって良かったなと思うけれども、こういう別な資料を持ち寄って補正予算がおかしいってというのは、なんていうか今後、全部そういうふうに疑ってかからなくなるじゃないですか。

だから、もし疑ってかかるんだったら、ちゃんとそういう自分なりに証拠をほれっていう、全く違うよっていう証拠をちゃんとやった上で言わないとね、今後、私もそうなんだけれども、そういうふうに感じました。

だから、昨日のあのやりとりっていうのは、やっぱりちょっと業者さんに対しても失礼だなと思ったし、職員に対しても失礼だと思いました。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 三澤さん。

○委員（三澤公雄君）　今の指摘は全く当たらないと思います。予算審議に必要な資料を調査のために求めるということは、何らかしくはなくて、出てきた資料は、週刊誌の記事とかではなくて、町から開示した資料です。

その開示した資料を読んだ時に、わからない疑問、こういう印象を受けるよとね。して、横田さんとのやりとりも中でも聞いても、全部を一言一句を起こした文章ではなくて、会議が終わってからまとめたんだというふうに聞けば、じゃあ、これに書かれてないことはあるかもしれないけど、こういった疑いを持たれますよっていう質問をすることに、何らかの制約があるんだろうか。

一方で、それをね、個人名出したとかね。でも、僕はY社という言葉を使ったりはしてるけど、そもそも関係者であるから、ご本人は退席して議長を代わってくださいということでは会議進めてるんだから、道新にはああいう書き方にもなっているけど、あれ、大久保さんと関係のある議案が審議されているんだな、ということは、容易に想像されることでしょう。

だから、それがね。何がこういった訴えになるのか。逆に、八雲ハイヤーに関することは質問するなっていうイメージにさえ取られちゃう。

○議長（大久保健一君）　違う違う違う。

○委員（赤井睦美君）　何でそうなるの。それは違うわ。

あのね、この書類を見て、疑った人って何人いるんでしょう。私は全然疑いませんでしたよ。ただ、疑ったから、今音声聞いているわけでしょう。それで、ここまで時間かけて音声聞いて、なんともなかったんだから、やっぱり昨日のは間違ってたなっていう、あの言い方だよ。行政マンに対しての言い方とかもやっぱり違ってたんだなと思うから、私そこは訂正しなきゃないと思います。

なんか、調査するんだから、何言ってもいいとも何やってもいいとか、そういうふうにはならないと思うんだよね。やっぱり、相手の心を傷つけるような言い方、寄り添ってんでしょうみたいなね。そういう言い方っていうのは、疑義とかさ、やっぱりそれはないなって。

だから調査するのも悪いと思わないし、いくらでも調査すればいいんだけど、ちゃんとした、昨日の横田さんの1つの発言で、これを相手のS社に見せたらなんかニュアンスが違う。

だけど、それは一方、1社にだけ見せてね。ニュアンスが違うからって、それを突っ込んでいくっていうのは、私はだったら両方呼んで聞くべきであって、1社のそのニュアンスが違うって一言でここまで時間かけてね、証拠を出させるっていうのは、私はやりすぎっていうか。

徹底してやるんだったら、両者呼んで徹底してやればよかったし、1社だけの意見でそうやって追及するっていうのは、今後、私のY社に味方するとかしないとかじゃないですけど、今後、いろんなこと出てきた時に、1社だけに確認するとはおかしい。やっぱり2社いるのであれば、関係者を呼んで確認する。

○委員（三澤公雄君）　ちょっと待って。じゃあ、町民の声を聞いたことに質問をしましたという時に、その町民は全体の何割を占めるかだとか、そういったことまで裏付けが必要になっちゃったの。

だって、訴えに応じて質問をしていることってことは、これまであなたにもあるでしょう。

○委員（赤井睦美君） あるけど。

○議長（大久保健一君） いや、違う違う。いい、質問して良いですか。

例えばね、八雲製材さんがね、黒島建設さんが談合してるんじゃないかと。例えばだよ。例えば、そういう訴えがありました。そしたら、それを、片一方の話だけを捉えて、本会議場でやるの。

○委員（三澤公雄君） ちょっと待って。町から情報公開請求した公式な文書を手に入れて読んだ上で。

○議長（大久保健一君） だから、やるなって言ってんじゃないくて、本会議場でライブ中継が流れるときは、それは、その企業に対して不利益がないように細心の注意を払わなきゃダメだよ、っていう話。

○委員（三澤公雄君） そういうことであれば、常任委員会の時に、最初は単価の設定はこうでしたっていう丁寧な説明があったら、わかるよ。僕らは、常任委員会の説明では、最終的な提案の２日目の決まったことを報告しか受けてないんだから。

そして、本会議に向かった時に間に合うようなかたちで、この情報開示請求ができて、ちょっと待ってよって、常任委員会で触れてないところがあるなっていうことで、問題提起をあの場でしようということのを妨げられる何者でもないじゃない。

○委員（赤井睦美君） 妨げるとかじゃなくて、単価が合わないことについての数字の質問は全然いいと思うの。ただ、それによって寄り添ってるとか、片方が味方しているとか、そういう発言がおかしいと思う。

○委員（三澤公雄君） だって、答弁が足りないからさ。

○委員（赤井睦美君） 足りないのはいいのさ。

だから、前に聞いてた単価の出し方と今違うじゃないか。それはどうしてこうなったんだってのはいいけど、寄り添っているとかさ、なんか義理があるとかね。そういうのは、やっぱり私、おかしいと思うんだよね。

○議長（大久保健一君） 例えば、さっきも言ったけど、そういう疑いがあると。片一方の業者が訴えたことがあって、それを追及するなどは言ってないよ。追求するのはいいけど、ライブ中継なされているところで、その会社に損害を与えるような可能性がある発言は注意しなきゃならないということさ。

○委員（三澤公雄君） （何か言う声あり）

○委員（赤井睦美君） いや、私も失敗したことがありますよ。例えば、総合病院に対して、看護師さんの態度が全然なっていないとかって言われると、そうかもしれないと思って言ったら、いやいや、その前のこの人の対応が悪かったんだ。

だから、ちゃんと調査しないと、そういうことって両方聞かなきゃわからないから。だから、苦情を訴えられたら言うとかそういうことじゃなくて、やっぱりちゃんと両方の話を聞いた上でやらないと。たまたま議長だけれども、これから。

○委員（三澤公雄君） ちがうよ。それで言ったら、そもそも疑いを持たれるきっかけは議員であり、そして、議長になっても、こういった政策決定の場で会議に関わるっていうことを利益相反になるっていう自覚がない、大久保さんのそもそも原因じゃないの。

○委員（赤井睦美君） ええ。

○委員（三澤公雄君） ええ、じゃなくて、利益相反でしょう。行政をチェックする議会議員が政策決定の場に関わってるんだよ。予算も含めての。ここはね、会議代表者でも、代表者じゃない人が息子さんが出てるのであれば息子さんに任せるとか、疑いが疑いのままでどんどん膨らんでいくんだから、それを疑いを持ったほうが悪いとか、質問の仕方が悪いとか。

○委員（赤井睦美君） 疑いを持ったほうが悪いなんて一言も言ってないわよ。

○議長（大久保建一君） 俺、その文章にも書いたけど、議員同士の相互監視だとか、倫理に関することを追求するな、なんていうのは決して思っていないし、それは議員としてのあるべき仕事だと思う。

だけど、企業の不利益になるようなことは、ちゃんと注意しながら取り扱わないと大変だ。例えば、たまたま、今回、うちの会社だったけど、うちの会社じゃない全く違う業者のことでも、片一方の話を聞いて、あの議場で名前が分かるような不利益になるような話だったら、私は議長として止めますよ。それは。

○委員（三澤公雄君） 片一方の話だけじゃないって。片一方の話が問題提起だけど、資料開示をしたら疑いが持たれるような資料内容だったから、それに基づいて質問してるんだよ。片方の業者の言い分だけで、質問なんかしてないはずだよ。

○議長（大久保建一君） だけど、結果的にどうだったの。

○委員（三澤公雄君） こうやって聞く機会は、今のタイミングで作れたから疑いが晴れたわけでしょ。

○議長（大久保建一君） 横田さんはどう思ってるんですか。この議事録というか。

○委員（横田喜世志君） 本人からはね、こういうふうに決まったっていうのは、本人も納得してる。でも、ここに書かれていることは、ちょっとニュアンスが違う。

○議長（大久保建一君） だから、そのニュアンスの違いっていうのはどこな。

○委員（横田喜世志君） なおかつ、2月の分で、それならできねえって言って、SGさんでやればいいでしょっていうぐらいの勢いだったのに、2回目の時に8万円にするったらやらせてくれって言ったっていう、そういうなんていうんだろう。やってもいいって、最初から言ってる自分の立場っていうよりも、自分に置き換えたら。だって、自分は。

○議長（大久保建一君） でも、ニュアンスの違いがあったと思いますか。これで。この議事録と聞いた感じのニュアンスが違うんですかってこと。違うって感じたの。

○委員（三澤公雄君） 聞いたからわかったこと。聞いたことからわかった。

○議長（大久保建一君） いやいや、聞いてからどう思ったのって。

○委員（三澤公雄君） 1日目でやるって言った意思があった企業に寄り添わない会議の進行したのは間違いないでしょう。

だけど、問題提起が土日を外すっていうことが文章だけでは、ちょっとそこまで読み切れなかったから、今回聞いたから分かった。だから、再設定したっていうけど、まだもう1つ。予算が増えた。要するに4万円だったものが8万円になったという解釈かな。

そこに関しては、あの場でも僕質問したけど、僕が納得できる答えは返ってきてないからね。その中のやりとりの中の出来事だから。

○委員（赤井睦美君） 納得するまで聞くのは別に反対はしません。そのとおりだと思う。私もしつこく聞くほうだから。だけど、その時にその姿勢を非難するんじゃないくて、納得する答えを出してくれってことを言うんであって、なんか納得する答えが出てないと偏っているとか、そういう判定の仕方ってやっぱおかしいと思う。

○委員（三澤公雄君） そう見えますよってことでしょ。

○委員（赤井睦美君） だって、今聞いてたって、もう本当に利用者の立場に立って話してるっていうのはよくわかったし、それは聞いたからわかったって言うんだけど。私はこれを読んだだけでも疑いはなかったし、ちゃんと両方で話し合ってやってください、というふうに言ってんだから、それでいいと思うんですよ。

だから、徹底的に調査するのはいいけれども、やっぱり質問する側がもっと、みんな疑ってたんですか。私は疑ってないから、ここまでする必要はないと思ったんだけど、皆さんはどうなんですか。

○委員（三澤公雄君） だって、この開示資料はみんな今の段階で（聞き取り不能）。

○委員（赤井睦美君） 前になんか配られなかった。

○委員（三澤公雄君） あれとは違うでしょ。赤井さんごっちゃになってるから。

あれ熊石のデマンドでしょ。みんなに横田さんが配った資料は。今回、横田さんが開示請求したものをを見せてもらったから、僕の手元にあるので。

○委員（赤井睦美君） だから、今後私は疑問はある質問はどんどんしたほうがいいと思うけど、相手のその態度を非難したりしてしたりするのは、良くないと思う。わからない数字をね、ちゃんと聞くのは当たり前だと思いますよ。それで、どうすればいいのか。これは。

○議長（大久保建一君） でも、疑いは晴れたんでしょう。

○委員（三澤公雄君） そうだね。SGさんの訴えはちょっと違ったなという。

○議長（大久保建一君） 違ったっしょ。私が最初から言ってることは、間違っていないでしょ。

○委員（横田喜世志君） 俺が言われたところはね、2月にそうやってこんなんじゃできねえって言ったのが、次の月に価格を上げて、どうだって言った時にやらせてくれって言った、そこに何なのよっていう話。

○議長（大久保建一君） やらしてくれって言ってないよ。どっちでもいいよって言ってんだよ、最初から。

○委員（赤井睦美君） だって、人件費とか考えたらできないのは当たり前だと思うし、そこでちゃんと上げて。

○委員（横田喜世志君） いやいや、そういう話じゃないでしょ。最初から2千円でどうだって言われてさ。

○委員（赤井睦美君） そういう話じゃないほうがおかしいと思う。だって正式に話合って、じゃあ、Yさん。

○委員（横田喜世志君） そしたら、そんなことを言うんだったら、人件費も出ないような事業をやらす町のほうがおかしくないか、そういうことになんないか。

○委員（赤井睦美君） それは町を責めればいいしょ。

○議長（大久保建一君） そういうことは増額頼んでや。ね。

○委員（横田喜世志君） だから、ここの今再生した打ち合わせ終了後の。でも、この打ち合わせ終了後っていうのが、最後に聞いた部分の打ち合わせ終了後の部分は、本人は打ち合わせ終了後だと思ってなかったっていうのはあるんだからな。

でも、その前の前回打ち合わせの時っていうね、前の町のところ、下のほうでね。八雲ハイヤーさんから、月に4万円では、予約センター業務を請け負うのは難しいとのことであったが、今回の説明のとおり、金額を増額したことでの意向確認としていがかかって、わざわざ聞いてるんだよ。わざわざ。

○議長（大久保健一君） だから、うちは最初から受付業務も合えばやりたいしっていうことは言ってたよ。それは。この会議じゃない場でも。

○委員（三澤公雄君） でも、この公開された会議録には、値段が合うならやりたいということが書かれてたし。

○議長（大久保健一君） 書いてない。

○委員（三澤公雄君） うちはこの時間で、こんな金額ではできないという意思表示は書いてあるけども。

○委員（赤井睦美君） 結果、両方で話し合ってやることになったんだから、それはもう有効でもなんでもないわけでしょ。

ただ、その時の気持ちが、なんかなんなのよって言ってるかもしれないけど、その時の気持ちまで私たちが汲み取ってさ、何なのよって言ったって、どうしようもないと思うんだよね。

○委員（横田喜世志君） いやいや、なんなのよじゃない。これは町の予算の絡むことなんだよ。金額が。

○委員（三澤公雄君） そこに疑問を持って質問することは何もおかしくないでしょう。

○委員（赤井睦美君） だから、予算に疑問を持つのがおかしくないんだって。

○委員（三澤公雄君） でね、この訴えね、公正な議会運営についてのお願いつて書いてるけど、今、大久保さんが守ろうとしているのは、自分の会社と自分の名誉だよ。

議会運営でね、議員が疑問を持って質問するという、一番大きな力を制限するということ。発言を取り消せて書いてる。こんなことは、僕は絶対飲まない。飲む、飲ませようとしている。もし、みんなが考えたとしたら、それは僕はもう抗う。

○議長（大久保健一君） 決を取ればいいんじゃないの。

○委員（三澤公雄君） 決っていう問題じゃないと思うな。力でいくのか。

○議長（大久保健一君） いやいや。

○委員（三澤公雄君） これは、議員のこれから、いろんなことに質問することを。

○議長（大久保健一君） 皆がどう考えているかということであって、力でない。

○委員（三澤公雄君） 力でしょう。議長っていう権限を、本当に重きにも思ってるなら、円満に議会運営ができることを最優先に考えるべきで、自分の会社と自分の名誉を守るために、こんなに時間を労してまで、発言取り消しとか、議員の、要するに行動、それこそ、公開の場で恥をさらせと言っているような。

同じことで、個人と会社の名誉を守るということで、俺は恥をかかされたイメージ言ってるんだけど、疑いが晴れたなら、それを公表すればいいわけでしょう。違うの。

- 議長（大久保建一君） どうやって。
- 委員（三澤公雄君） 調査がこんなに早まって。
- 議長（大久保建一君） どうやって公表するの。
- 委員（赤井睦美君） 疑って。
- 委員（三澤公雄君） 広報に書いてもいいよ。
- 委員（赤井睦美君） 疑いが晴れたと思うのはそっちだけじゃん。
- 委員（三澤公雄君） 大きな事だから。

前回の広報ではさ、1月から4月の出来事の中で、一番大きな二本柳証言のことが、広報に書けなかったんだよね。

- 委員（赤井睦美君） だって、あれだって。
- 委員（三澤公雄君） この事件のことを逆に広報の目玉にするということは、書けるよ。書かなきゃいけないと思っている。
- 議長（大久保建一君） いや、広報のことよりも、まず、本定例会の中でのことだから、定例会で済ませたほうが。
- 委員（三澤公雄君） わかってる、わかってる。
- 議長（大久保建一君） ほうがいいんじゃないの、とうこと。
- 委員（三澤公雄君） でも、僕は取り消す気なんて全くない。取り消したら、すべてのことが無に帰す。動画を見た人が、疑いを持ったままになるよ。

違う。その疑いを心配しているんだったら。

- 議長（大久保建一君） そうだよ。
- 委員（三澤公雄君） じゃあ、会期中に疑いが晴れたことを、何がしかアピールすればいいじゃないの。
- 議長（大久保建一君） だから、どうやってやるのって聞いているんだよ。
- 委員（三澤公雄君） いや、工夫してください。
- 議長（大久保建一君） してくださいって、誰が。誰が工夫。
- 委員（三澤公雄君） だって問題提起してるのはあなたでしょう。
- 議長（大久保建一君） いやいや。
- 委員（三澤公雄君） 僕は正当な議員活動していたつもりです。
- 議長（大久保建一君） 問題を起こしたのは、三澤さんと横田さんでしょう。
- 委員（三澤公雄君） いや、そういうふうに指摘しているのは、あなたでしょう。僕はそんなふうに思っていないから。発言を取り消さなきゃいけないというのは。
- 議長（大久保建一君） 三澤さん、ただの駄々っ子だよ。
- 委員（三澤公雄君） はあ。
- 委員（赤井睦美君） みんなはどう思うか。どうなの、この2人のやり取りじゃなくて、みんなの意見大事だと思うんですよ。
- 委員長（牧野 仁君） そうですね。
- まあ、全員で会議しているからね。
- 委員長（牧野 仁君） まあ、皆さんに聞きたいと。黒島さん、どうですか。

○委員（黒島竹満君） ただね、やっぱり横田君と。聞き違いというか、聞いてきたことが、全面的になったということで進めたからこういう形になってるけど、もうちょっとやっぱり、その辺は、SGは、聞いている範囲では、そういう形になっているけど、やっぱり今、三澤君それから横田君、言っている部分については、やっぱり一理ある部分もある訳だよな。この資料だけ見て、結局資料をとって、そしてあの議場で質問しているわけだから。

だから、そのところはしっかりと、SGさんの話を聞かなかった部分があるからあれだけどもさ、ただやっぱり勘違いされる部分があるわけだよな。ここにさ。

結局、横田君が言うように最初4万円でできないよって言ったのは、それこそ8万円になった部分からいくとさ、勘違いされる部分があるんでないの。

そこをどうやって、したから、この勘違いされた部分を、どうやって取り消すっていう話になってくるんでないの。町側としてはさ。

○議長（大久保建一君） いや、ただ、そのやりとりの中で、会社名が出た本会議中で中継されたことについてはどう思いますか。

○委員（黒島竹満君） いや、それはやっぱりきちっと調べなかったから。横田君も。

○議長（大久保建一君） それは謝罪すべきだと思いますか。発言を取り消すべきだと思いますか。

○委員（黒島竹満君） まあ、それは横田君と三澤君の、やっぱり謝るところは謝って、謝れるものであれば謝ればいいし、謝れないっていうのであれば、また。どうなのか。きちっと、あれしないばダメでないの。

一番問題なのはここだと思うんだよ。横田君が聞いてきた部分が、最初やらないって言った部分を。だから、これあの不信感になってしゃべり出したわけでしょう。ここなんだって、問題は。

○議長（大久保建一君） だけど、今の録音を聞いて、じゃあ、疑いが晴れたということですね。

○委員（黒島竹満君） そうですよ、まずSGは、結局降りてんだから。降りて。

○議長（大久保建一君） したら、それは払拭できたということで、良いんですか。

○委員（黒島竹満君） 八雲ハイヤーさんやってくださいって言ってるんだから。

○議長（大久保建一君） わかりました。

○委員（黒島竹満君） それはそれで納得できましたよ。

○委員（安藤辰行君） 書類はだいたい同じ内容なんですよ。

○委員（三澤公雄君） 音声とね。

○委員（安藤辰行君） あとはその、最初の決めた6万円がさ、SGさんはいいいよって言った時に行けるんでないかという話していたときに、そのまま進むのが普通じゃないかなと俺は思うんだけど。

八雲ハイヤーさんができないって言ってるんだから、だから、できる方とを商談というのが進むわけですよ。普通は。戻らないんですよ、普通は。だけど、まだ2回目に戻して、金額まで上げて、だから、そういうことするから、どうしても町と八雲ハイヤーと何かあるんでないのって思われちゃうんですよ。

普通は、一回目の6万円で、SGさんはいいよ、いや八雲ハイヤーさんはそれなら合わないからうちではできないよって言ったら、普通はそのまま6万円で進むんですよ、普通は。

そのために提示しているんだから。それをねて、また新たに予算組んで、いろいろ聞いた中で、8万円という数字を出してきてどうですかって、それだったら、うちできるからやりますよ、って、それはやれるさね。

できない、6万円ではできないって言ってるんだから。値段が上げた時点で、うちではできませんよって言ったら、まあ、その辺のニュアンスが、SGさんもあればあると思うんだ。だから、今に至っているのもあって、それは別にあの、録音とはほとんど変わってない。

俺は思ったのが、正月の休みも、1日から3日、いつが休みなんですかって、役場から、町からの、1月から3日まで休みなんですが、大丈夫ですかという話でないんですよ。八雲ハイヤーさん、いつからいつまで休みなんですかって。1日から3日です。SGさんは、1週間ぐらい休みなんです。だけど、結局1日から3日の休みを優先してるわけですよ。

要するに、それ俺、思ったのも、やっぱり八雲ハイヤーさんと、そっち近寄ってるような感じを受けるんですよ。その正月の休みだって。

○議長（大久保建一君） ちょっと、そこ補足していい。

あの、1日から3日まで休みなのは熊石のデマンドバスもそうなのさ。

○委員（安藤辰行君） うんうんうん、わかるんだけど。

○議長（大久保建一君） だからそれに合わせた。

○委員（三澤公雄君） だから、そこもね、八雲ハイヤーの休みを知ってた前提で問題提起しているんです。

○委員（安藤辰行君） だから、疑えばきりないんだけど

○委員（三澤公雄君） 疑えばきりないんだ。

○委員（安藤辰行君） SGさんに言うのにも、八雲ハイヤーさんに言うのにも、いや、1日から3日までこういうね、熊石線もあるから、3日まで休みが行きそうなんですけど大丈夫ですか、間に合うんじゃないよ、だけど、うちは1週間休みです、うちは1日から3日です。まあ、熊石もありますから3日まで休みですって、したら、どっちを優先すると、いや、合わせてくださいとか、いろいろお話はあると思うんだけど、いきなり1日から3日の話で進んでるから、その辺もちょっと、ニュアンスがちょっと違うんですね。

だから、疑えばきりないんだけど、うん、その議場で三澤さんが言ったことは、確かにね、事業者さんの方に迷惑をかけているっていうのは、大体分かる。俺も事業やってから、それで言われるっていうことは、やっぱりマイナスになるし。

だから、それはちょっと言い過ぎな部分もあるんじゃないかな、ということはあるんだけど、今回は、俺は謝った、けじめとしてね、それはそれで、けじめとして謝るものは謝って、ただ、納得いかない点が、前の人の6万円から始まっているから、それで、最終的には決まったことだから、いいんだけど。

でも、ちょっと納得いかないってところはあるんだよね。やっぱりね。流れとしてね。

○委員（黒島竹満君） 文章を見ている文章の流れからいくと、やっぱり一番、やっぱり疑問に思う部分がここなんだと。

○委員（安藤辰行君） けど、そういうことがないように進めてきているんだったら、誰もこんなこと言わないとおもうんだ。

○委員長（牧野 仁君） 疑いがあるから。

○委員（安藤辰行君） そうそう、6万円て出したけど、八雲ハイヤーさんはそんな値段ならできないよって言ったら、SGさんは、いややれるかも分からない。受けるような話をしたけど、ちょっとSGさんは無理だよ。

○議長（大久保建一君） あの、補足していい。あの、ごめんなさい、会議に会議資料に載ってないんだけど、補足を言わせてもらえれば、SGハイヤーさんが、その電話を受けるっていう部分は、事務員で受けるって言ってたの。オペレーターじゃなくて、要は、あそこは母体が土建屋さんだから、土建屋さんの事務所の方で、それを受けるっていう話で、なおかつその、最初土日受けてもいいって言ってたから、社長が携帯電話持って歩いて、どっかでその受けてメモ取ってっていう程度だったから、役場の方は結構心配してたのさ。

で、うちが熊石でデマンドやっているから、そのオペレーターとかの大変さが分かっているのさ。でも、SGさんがあんまり業務を理解しないでしゃべってたとは絶対あると思って、役場職員も通じてるのかなあっていうのは、ちょっとあったから。

だから、その後々考えて、その8万円に疑念持たれる、この資料だけ見ればね、疑念もたれると言えば、俺もそれはそうかそうなのかもしれないけど、だけどあの、その外に持ち出したら、あのプライバシーの侵害とか、個人情報もあるし、結構聞くこと、例えば3路線の受付するんだから、どの路線のどこから乗って、誰さんが乗って、どこで降りて、料金がいくらだってことを電話でやりとりするって、ものすごい時間がかかるのさ。

そういうことをちょっと理解しないまま、どっちでもいいですよっていうのが読み取れたから、表情とかね、それでみんな心配してたんです。

それで、まあ、業務の大変さから考えたら、いやごめんなさいって、熊石の路線バスが1日1,000円でやってるから、だから、ちょっとその倍の2,000円でやってくれというというのはちょっとおかしすぎだよねっていう話で上がっただけの話で。

○委員（黒島竹満君） まあただね、音声も今聞いたから。ある程度理解できた。

ただやっぱり本当にこの文章だけ見ると、音声聞かなかつたら、この文章だけ見ると、ちょっとやっぱりおかしいねっていうのは、みんなも思うとこだけかなって。

○委員（安藤辰行君） でも、あの参事も悪いもんな。参事も悪い。話しててさ、SGさんが答えるか答えないようにとこ、いやしたらこの次でもいいから、どうだこうだって延ばすもんね、何事も次に延ばすんだ、まずさ。返事もしないから。したら返事しない方が悪いだかもわかんないけど、そしたらこの次にしましょうねって、見積もりもどうだこうだって、見積もり出して決めるからどうだこうだっていって。結局、見積もり方も何も見ないうちに決まっちゃうけ、まず。だから、なんとなく、あの参事も悪いんだよ。やり方が、進め方っていうのかな。あれもあんまりパツとしないもんな。だから、余計、こう流されんだ。

○委員（三澤公雄君） まあまあ、音声聞いたら、6月の定例会で予算だして、それが決まったら見積もり合わせをというんだけど、会議の中で、八雲ハイヤーさんに決まったから、見積もり合わせはやる必要がなくなったということなの。

○委員（安藤辰行君） まあ、そうだね、実際には。いらないさ。

○委員（横田喜世志君） だって、この中にもさ、文章として載っているけさ。要は見積もり合わせするって、両者やるんだから、見積もり合わせするってことになる。ところが業者間で話し合うとかってというのが後から出てくるんだよ。

なんでって、ちゃんとやればいいでしょって俺なんかは思っちゃうんだけど。

○議長（大久保建一君） 正直に、SGさん受けたくなかったんだと思うよ。

○委員（三澤公雄君） 会議の中で予算を提示してるけど、見積もり合わせするという方針は、1社でもやらなきゃいけないものじゃないの。

○委員（安藤辰行君） いや、見積もりを出すさ。役所の見積もりってあるっしょ。だから、それと合わせるから、1社でも見積もりやってる。

○委員（三澤公雄君） でも、常任委員会報告段階でもう八雲ハイヤーさんって決まってる報告しか僕ら聞いてないし、今回の公開資料と。

○委員（横田喜世志君） これは、公開、資料の中でも、要は業者間で決まったっていうのは言ってたんだ。

○委員（三澤公雄君） ああ、会議ではね。

○委員（横田喜世志君） あの、報告で。だから、俺もそこでね、2社あって、なんでこっちに決まったんだろうっていう疑問符が湧いたの。2社あって、どうやって八雲ハイヤーさんに決まったんだろうっていう疑問符が湧いたんだけど、まあ、それがまあ、1つのもとになっているんだけどね。

○議長（大久保建一君） 納得できたでしょう。それはこれで。

○委員（横田喜世志君） あ、いやいや。

○議長（大久保建一君） 音声で。

○委員（横田喜世志君） これをね、あの、なんでそうやって決まったのったら、要は本人もね、譲ったって言ったから。それはいいんだ、俺はな、そういうところは。

○議長（大久保建一君） したら、いいんだ。

○委員（横田喜世志君） いやいや、この最後のね、ここでは打ち合わせ終了後、まあ、音声聞いても、本人は打ち合わせ終了後だと思ってなかったみたいだけど、音声ではちゃんと打ち合わせ終了しているんだわ。

まあそういう、なんていうんだろうな、思い違いとかも確かにあると思う。

でも、そこでやっぱり気になる言葉っていうのは、そこに、1回断ってるというかできないって言ったのに、金額が上がったら、なんで受けるのよって、いうとこの言葉が、やっぱり引っかかっちゃう。

○議長（大久保建一君） いや、金額が上がったら受けるって、その最初からやる気あるか、やる意向はあるけどあの金額なら受けられないっていう話をしてるから、合うんだったらやるよっていう話じゃないの。

○委員（水野博美君） それで商売として成り立つんじゃないの。

（何か言う声あり）

○委員（横田喜世志君） 受ける業者がいたのに、なんでそこをスルーしたんだっていう話になる。

○委員長（牧野 仁君） ちょっと待って。

○委員長（牧野 仁君） 水野さん、どうですか。

○委員（水野博美君） 私は全然、あの8万円上がったとかっていうのも、両方に、Y社だけに言ってるわけじゃなくて、両方にちゃんと提示しているし、私なんかあんまりこのシステムとかわかって、全然わからないって言ったらあれですけど、でもなんか全然違和感がなくて、商売だったら8万円できないって言うんだったら、で、それで6万円できない、そして、その業務量とかそういうことを考えて、じゃあできないんだから、じゃあ、業務量のことも考えて、8万円の提示、どうですかっていうのは、全然不思議じゃないと思うし、業者からしたら、だって普通、この仕事の量でこういう量でどうとかって言って計算して、6万円じゃなくて、8万円で、8万円だったらできる、受けますよっていうのは、全然普通だと思います、私は。

で、いや、さっき睦美さんと三澤さんのやり取り、もちろん、もう調べるのはもちろん、あのあれなんだけど、当たり前のことなんでしょうけど、金額にね、あの疑問があるなら、調べるのは当たり前だし、そこじゃなくて、でもやっぱりなんかね、あの業者さんに迷惑がかかるような、やっぱり発言はやっぱり、ちょっと私は、ちょっと業者さんには、まあ、今回は大久保さんの会社だったんですけど、他の会社とかだったら、まあ、きっとそれはみんなあの、ちゃんと考えてそれを判断しながらお話しするとは思いますが、今回でもそういうことがもしある、またね、なんかの機会であるんだったら、やっぱりちょっとまずいなあっていう感じはします。

全然違うんですけど、あの三坂さんとかの発言とかも、確かに、あのお名前出して、悪い部分って、自分でも認めてたから、でも、あそこであの場で、あそこまで言っちゃったらどうなのかなっていうのは、もうちょっと、私は感じてました。

○委員長（牧野 仁君） 最後に副議長はどうでしょうか。

○委員（宮本雅晴君） 私はあのはっきりしてよかったんじゃないかなと思います。データをきちっとみんなでこう会議室で、全員であの聞いて、それと、この書類とほとんど間違いなしだということがわかったということが一番大事なことじゃないかなと思うんですよ。

あと、もう、あの横田さんがどうだ、三澤さんがどうだ、議長がどうだっていうのは、それはもうあくまでこの議案に沿っての問題点だから、本当にそこは、謝るべきことは謝らないといけないし、やっぱり間違ったことを言ったんだったら、謝るというのは、いやだけでも、やっぱりそれは大事なことだし、議会これから仲良くやっていかないとはいけないこの14人のメンバーが、やっぱり1人でもね、不信感を抱けばダメだと思うんですよ。

やっぱり、その点、まあ、みんな仲良くね、今後やっていきたいなと思いますので、今日はやっぱりこの件については、もうこれでおしまいというふうにしていきたいと私は思っております。

○議長（大久保健一君） せっかくなんで、オブザーバーにも聞いたら。

○委員長（牧野 仁君） ああ、そうですね、オブザーバー。

○議長（大久保健一君） こんな時間まで付き合わされて。

○委員外議員（関口正博君） まだ他にもあるんでしょ。

（何か言う声あり）

○委員長（牧野 仁君） 関口さん、どうぞ。

○委員外議員（関口正博君）　そうですね、僕はね、本来であれば、委員会の中でしっかりとあの、ある程度決着つけて、議会のね、中ではやっぱりちょっと整理された形になっているのいいなっていうのは、本当にそう思いました。

ただし、あの当然ね、今、疑いはそもそも晴れてるんだけど、あの議長として、そういうもの、町の事業の、そういう金額を決める場にいるっていうこと自体は、いろんなことを疑われる可能性があるんで、これはやっぱり今後、気をつけていただきたいなと。

これからは、いろいろな流れがあって、これもこう、あの熊石のデマンドがあって、この八雲、事業は別だって言うけど、前は八雲ハイヤーがとった。だけど、今回はSGだぞっていうふうにもちょっとあったもんだから、そういう中ででの運行業務のこういうやり取りっていうのは、やっぱり事業者同士がちゃんと話して、お互いに信頼関係をもって進んでいかないと、こういう軋轢が起こるよっていうことでもあるから、ここはやっぱりあの大久保社長としての八雲ハイヤーも、そこらへんの、SGとのやり取りに関しては、ちょっと気をつけて、やっぱり違うから、議長、公人だし、金額決める場にね、そういう議長としての社長がいるっていうのは、やっぱりちょっと疑われるっていうのは、これ、リスクとしてあるということだけは、今回よく覚えていただきたい。

ただ、議事の中で、やっぱり固有名詞出して、あの職員もそうだけど、ああいう形を取るの、やっぱりちょっといろんな人、萎縮しちゃうんで、やっぱりあの控えてほしいなっていうのはあります。関口のことはなんぼ怒鳴ってくれても構わないですよ。

でも、職員とかはちょっと別だからね。

○委員長（牧野 仁君）　ありがとうございました。

○委員長（牧野 仁君）　倉地さんは。

○委員外議員（倉地清子君）　あの、私もその事業者さんをこう決める場所だから、その、そもそも長い間、八雲ハイヤーがあのですと携わってきたことについては、周囲からいっぱい聞いてました、なんですよ。

なので、やはりさっき関口議員が言ったように、そういう場に居ないような配慮はしてほしかったなっていうのは、正直ある中なんですけれど、けども、三澤議員のあの場での発言というのは、圧力がありすぎて、自分の思ったことを言った答えが返ってこないって言うけれど、答えが返しようがないのかなっていうような、ところもあるなっていうところがあります。同じ会派だから、またいろいろね、違う思いがあるということで、あとでまた何かこれから会議が行われるかもしれませんが、はい、でも、はいそういうことで。

○委員長（牧野 仁君）　ありがとうございました。

○委員長（牧野 仁君）　小西さんどうでしょう。

○委員外議員（小西雄一君）　私もまあ、関口議員と似たような感じですね。

ただ、やっぱり、あの今回、この2回に分かれて決められたということで、おそらく1回で全部が決まるということでは、多分なかったと、事務局側もそうだと、僕は思っていて、もう少し話を詰めた上で、じゃあどうなんだっていうので、まあだから、流れ的には別に不思議ではないけれども、やっぱり関口さんが言った通り、やっぱりね、そういった立場がある人ですから、そこは慎重にというか、やったほうがいいんじゃないかということ考えています。はい、以上です。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。

○委員長（牧野 仁君） 最後に寺田議員。

○委員外議員（寺田広樹君） まあ、ほとんど関口さんが言ってくれた思いと一緒になんですけれども、最初の、横田さんがこう発言されたときに、え、とは思いました。

で、実際の音声とこの資料を聞いてみて、まあ、何の問題もないっていうのは思ってます。そしてその、大久保さん、議長なんで、やっぱり私の耳にも、そういう事業の代表だとか、そういうのはいいのかっていうのも言ってくる方もいるので、やっぱり関口さん言われたとおり、そういう場では、いない方が安全なのかなっていうのは思っています、はい。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。じゃあ、お2人、皆さんのご意見聞いて、まあ、本人も目の前ですが疑い晴れたんですよ。これに対して、謝罪の件もお話しできましたけれども、どうでしょうかね、謝罪、明日やった方がいいんですか。

○委員（三澤公雄君） 取り消して、どこの部分なの。

本当にその、寄り添うっていう分の発言の取り消しだけならいいけど、質問全部を取り消せっていうのは、僕はとっても飲めないで、寄り添うっていう分の、要するに、そういう発言の仕方をしたことを謝れっていうのであれば、そこは謝らなきゃいけないなということを、皆さんの指摘はあの当たると思いますので、謝ることはします。

それは文字起こしして、この箇所とこの箇所とこの箇所みたいな感じになるのかな。

○議会事務局長（野口義人） そうですね。

○委員（三澤公雄君） これまでの経験からいいますと。

○議会事務局長（野口義人） 今、会議録作ってますので。

○委員長（牧野 仁君） あと、横田さんはどうでしょう。謝罪については。

○委員（横田喜世志君） まあ、文字起こしして、ここを削除せと言うんだったら、もう応じないわけではない、応じなくはない。

応じなくはないけれども、こっちにもある程度言い分あるからさ。それを文字起こして、ここ、削除してくれって言って、それが飲めない場合もあるので、それは、そういうふうに提示されてからの判断で、謝るか謝らないか決める。

○委員（三澤公雄君） 僕も寄り添うというところだけだよ。寄り添うという表現をつかったところ。不適切な表現だと。問題提起をしたことに関しては、謝る気はない。

○委員長（牧野 仁君） それで進めてよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） じゃあ今日の会議はこれで終わります。

〔閉会 午後 6時29分〕